延岡市文化財調査報告書　第49集

市内遺跡

平成24年度市内遺跡発掘調査事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

延岡市教育委員会

序　　文

本書は延岡市教育委員会が国・県補助を受け実施した、市内遺跡発掘調査事業の調査報告書です。

延岡市は宮崎県の北部に位置し、近代以降は豊富な水資源を利用した県内最大の電気化学工業集積地として栄え、教育文化・産業経済の牽引役を担っています。

長年の課題であった高速道路網が着々と整備され、「第５次延岡市長期総合計画」に基づいた企業誘致や地場産業の振興など雇用状況の改善に向けた取り組みや、新清掃工場の整備、新火葬場や新最終処分場の建設着手など様々な施策を進め、東九州の基幹都市としての役割もさらに高まっています。

さて、本年度は20件の試掘確認調査を行っています。調査の大部分は民間開発に伴うのもで、この傾向は今後も続くと予想されます。

本書が文化財保護への理解を深める一助として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にあたり宮崎県教育委員会をはじめ、地権者並びに開発事業関係者、調査地近隣の方々に御協力をいただきましたことに、深く感謝いたします。

平成25年３月

延岡市教育委員会

教育長　町　田　訓　久

例　　言

1．本書は各種開発事業に伴い、延岡市教育委員会が国・県補助を受け、平成24年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。本年度は、20箇所の試掘・確認調査を実施した。

2．昨年度調査を実施した南浦村古墳は本書に掲載し、年度末に調査予定の稲葉崎町５丁目社ヶ原地点、南浦村古墳は次年度に報告する。

3．発掘現場での実測写真撮影等の記録は、発掘作業員の補助を得て、小野信彦、尾方農一、甲斐康大が行った。整理作業は延岡市教育委員会で行い、遺構及び出土遺物の製図・図面作成等は、整理作業員の協力を得て各現場の担当者が行った。本書の執筆は各担当者が、編集は小野が行った。

4．本書における方位は磁北を示し、レベルはすべて海抜高である。

5．出土遺物及び調査記録類は、延岡市教育委員会で保管し、今後、展示公開する予定である。

目　　次

第１章　はじめに

１．はじめに ……1

２．調査の組織 ……1

第２章　調査の記録 ……２～41

報告書抄録 ……44

挿　図　目　次

番号	内　　容	頁	番号	内　　容	頁
Fig. 01	平成24年度市内遺跡発掘調査分布図(1/200,000)		Fig. 33	恒富本村遺跡(第1次)位置図(1/15,000)	21
Fig. 02	南浦村古墳(第3次)位置図(1/50,000)	2	Fig. 34	恒富本村遺跡(第1次)調査区配置図(1/2,500)	21
Fig. 03	南浦村古墳(第3次)調査区配置図(1/500)	3	Fig. 35	恒富本村遺跡(第1次)出土遺物実測図(1/3)	22
Fig. 04	南浦村古墳(第3次)T1～4土層断面図(1/80)	4	Fig. 36	吉野遺跡(第9次)位置図(1/15,000)	23
Fig. 05	南浦村古墳(第3次)T1石碑周辺出土遺物実測図(1/3)	4	Fig. 37	吉野遺跡(第9次)調査区配置図(1/2,500)	23
Fig. 06	延岡城下町遺跡(第5次)位置図(1/15,000)	6	Fig. 38	吉野遺跡(第9次)T1集石出土平面図(1/80)	24
Fig. 07	延岡城下町遺跡(第5次)調査区配置図(1/2,500)	6	Fig. 39	吉野遺跡(第9次)T1南壁土層断面図(1/80)	24
Fig. 08	延岡城下町遺跡(第5次)土層断面図(1/40)	7	Fig. 40	吉野遺跡(第9次)集石遺構実測図(1/20)	25
Fig. 09	延岡城下町遺跡(第5次)出土遺物実測図(1/3)	7	Fig. 41	吉野遺跡(第9次)出土遺物実測図①(2/3)	26
Fig. 10	浄土寺遺跡(第1次)位置図(1/15,000)	8	Fig. 42	吉野遺跡(第9次)出土遺物実測図②(2/3)	27
Fig. 11	浄土寺遺跡(第1次)調査区配置図(1/2,500)	8	Fig. 43	吉野遺跡(第9次)出土遺物実測図③(2/3)	28
Fig. 12	日の出町遺跡(第3次)位置図(1/15,000)	9	Fig. 44	大武遺跡(第2次)位置図(1/15,000)	29
Fig. 13	日の出町遺跡(第3次)調査区配置図(1/2,500)	9	Fig. 45	大武遺跡(第2次)調査区配置図(1/2,500)	29
Fig. 14	日の出町遺跡(第3次)T2南壁土層断面図(1/40)	10	Fig. 46	東原遺跡(第9次)位置図(1/15,000)	30
Fig. 15	日の出町遺跡(第3次)トレンチ配置図(1/80)	10	Fig. 47	東原遺跡(第9次)調査区配置図(1/2,500)	30
Fig. 16	日の出町遺跡(第3次)出土遺物実測図(1/3)	11	Fig. 48	東原遺跡(第9次)土層断面図(1/40)	31
Fig. 17	東原遺跡(第8次)位置図(1/15,000)	12	Fig. 49	東原遺跡(第9次)出土遺物実測図(1/3)	31
Fig. 18	東原遺跡(第8次)調査区配置図(1/2,500)	12	Fig. 50	延岡城内遺跡(第24次)位置図(1/15,000)	32
Fig. 19	東原遺跡(第8次)出土遺物実測図(2/3)	13	Fig. 51	延岡城内遺跡(第24次)調査区配置図(1/2,500)	32
Fig. 20	荒田遺跡位置図(1/15,000)	14	Fig. 52	延岡城内遺跡(第24次)土層断面図(1/40)	33
Fig. 21	荒田遺跡調査区配置図(1/2,500)	14	Fig. 53	延岡城内遺跡(第24次)出土遺物実測図(1/3)	34
Fig. 22	柳瀬遺跡位置図(1/15,000)	15	Fig. 54	延岡城内遺跡(第25次)位置図(1/15,000)	35
Fig. 23	柳瀬遺跡調査区配置図(1/5,000)	15	Fig. 55	延岡城内遺跡(第25次)調査区配置図(1/2,500)	35
Fig. 24	林遺跡位置図(1/15,000)	16	Fig. 56	延岡城内遺跡(第25次)土層断面図(1/40)	36
Fig. 25	林遺跡調査区配置図(1/2,500)	16	Fig. 57	延岡城内遺跡(第25次)出土遺物実測図(1/3)	36
Fig. 26	宮野浦菅田遺跡位置図(1/10,000)	17	Fig. 58	馬場畑遺跡位置図(1/15,000)	37
Fig. 27	宮野浦菅田遺跡調査区配置図(1/5,000)	17	Fig. 59	馬場畑遺跡調査区配置図(1/2,500)	37
Fig. 28	惣泉寺跡(第1次)位置図(1/15,000)	18	Fig. 60	馬場畑遺跡トレンチ配置図(1/200)	38
Fig. 29	惣泉寺跡(第1次)調査区配置図(1/2,500)	18	Fig. 61	馬場畑遺跡T1東壁土層断面図(1/60)	38
Fig. 30	惣泉寺跡(第1次)出土遺物実測図(1/3・1/4)	19	Fig. 62	馬場畑遺跡T3・T4西壁土層断面図(1/60)	38
Fig. 31	野田町八田遺跡(第6次)位置図(1/15,000)	20	Fig. 63	北浦町三川内上塚第1地点位置図(1/15,000)	41
Fig. 32	野田町八田遺跡(第6次)調査区配置図(1/2,500)	20	Fig. 64	北浦町三川内上塚第1地点調査区配置図(1/2,500)	41

表　目　次

番号	内　　容	頁	番号	内　　容	頁
第１表	平成24年度市内遺跡発掘調査一覧		第３表	平成24年度市内遺跡出土遺物観察表②	43
第２表	平成24年度市内遺跡出土遺物観察表①	42			

写　真　目　次

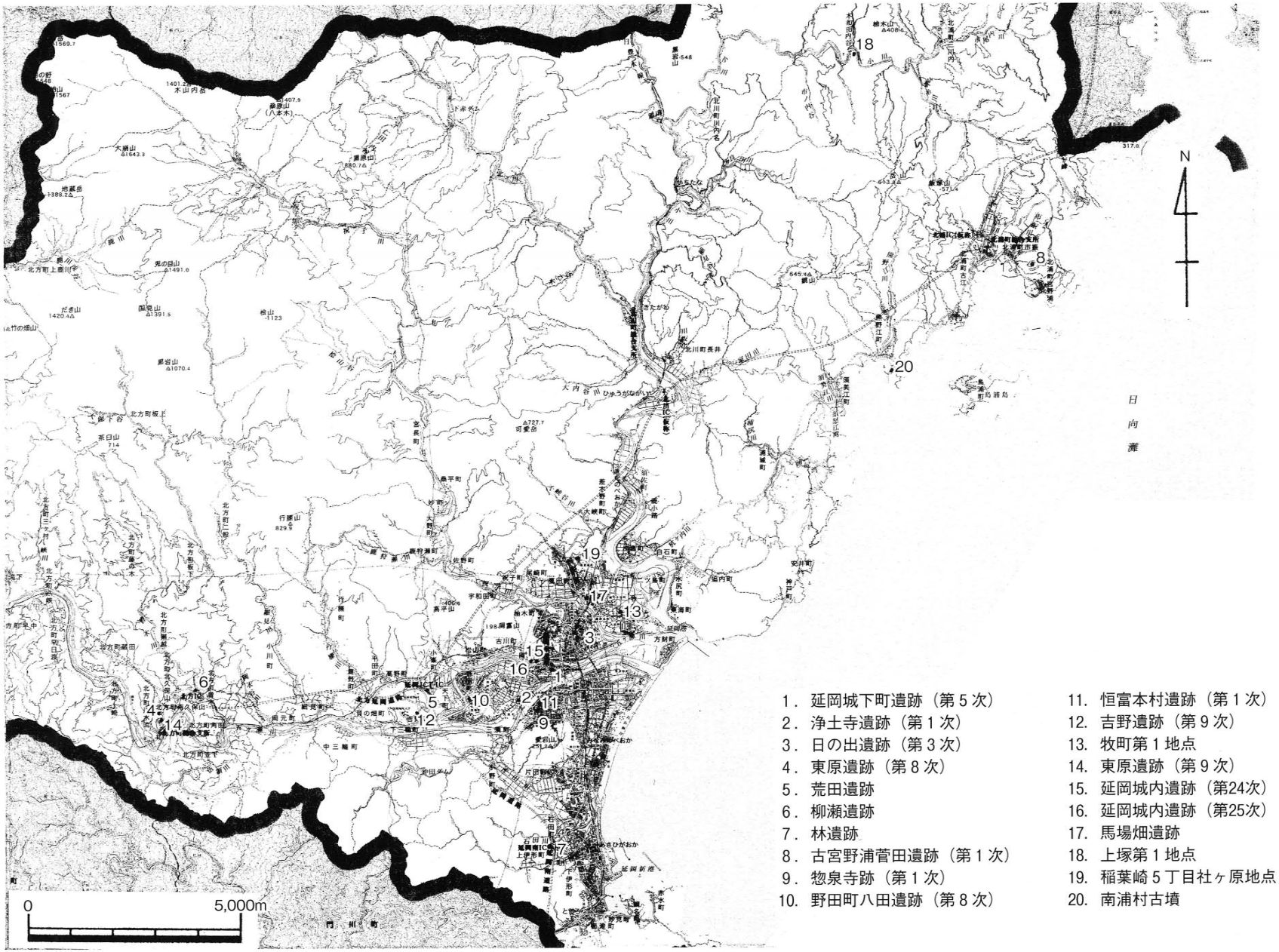
番号	内　　容	頁	番号	内　　容	頁
PL. 01	南浦村古墳近景(南西から)	2	PL. 14	日の出町遺跡(第3次)調査地近景(南東から)	9
PL. 02	南浦村古墳指定地境石碑	2	PL. 15	日の出町遺跡(第3次)T1溝状遺構1土層(南から)	10
PL. 03	南浦村古墳調査風景T1	5	PL. 16	日の出町遺跡(第3次)T1溝状遺構1完堀(東から)	10
PL. 04	南浦村古墳調査風景T7	5	PL. 17	日の出町遺跡(第3次)T2－5層上面遺構完堀(東から)	10
PL. 05	南浦村古墳石碑開蓋状況	5	PL. 18	日の出町遺跡(第3次)出土遺物(1)	11
PL. 06	南浦村古墳人骨取上状況(縦)	5	PL. 19	日の出町遺跡(第3次)出土遺物(2)	11
PL. 07	南浦村古墳出土遺物	5	PL. 20	東原遺跡(第8次)調査風景(トレンチ2)	12
PL. 08	明治元年前後延岡藩士族屋敷図(明治大学蔵)	6	PL. 21	東原遺跡(第8次)土層堆積状況(トレンチ1)	13
PL. 09	延岡城下町遺跡(第5次)近景(北東から)	7	PL. 22	東原遺跡(第8次)土層堆積状況(トレンチ2)	13
PL. 10	延岡城下町遺跡(第5次)調査風景(北西から)	7	PL. 23	東原遺跡(第8次)土層堆積状況(トレンチ3)	13
PL. 11	延岡城下町遺跡(第5次)土層断面(トレンチ3・南から)	7	PL. 24	東原遺跡(第8次)出土遺物	13
PL. 12	延岡城下町遺跡(第5次)出土遺物	7	PL. 25	荒田遺跡近景(南西から)	14
PL. 13	浄土寺遺跡(第1次)近景(南東から)	8	PL. 26	柳瀬遺跡出土遺物	15

写　真　目　次

番号	内　　容	頁	番号	内　　容	頁
PL. 27	柳瀬遺跡近景(北から)	15	PL. 52	明治前後延岡藩士族屋敷図(明治大学蔵)	32
PL. 28	林遺跡近景(東から)	16	PL. 53	延岡城内遺跡(第24次)近景(西から)	33
PL. 29	宮野浦菅田遺跡近景(南から)	17	PL. 54	延岡城内遺跡(第24次)調査風景(西から)	33
PL. 30	惣泉寺跡(第1次)調査風景(南西から)	18	PL. 55	延岡城内遺跡(第24次)段状遺構検出状況(南西から)	33
PL. 31	惣泉寺跡(第1次)出土遺物(1)	19	PL. 56	延岡城内遺跡(第24次)土層断面(トレンチ2・南西から)	33
PL. 32	惣泉寺跡(第1次)出土遺物(2)	19	PL. 57	延岡城内遺跡(第24次)出土遺物(1)	33
PL. 33	野田町八田遺跡(第6次)近景(北東から)	20	PL. 58	延岡城内遺跡(第24次)出土遺物(2)	33
PL. 34	恒富本村遺跡(第1次)近景(東から)	21	PL. 59	明治前後延岡藩士族屋敷図(明治大学蔵)	35
PL. 35	恒富本村遺跡(第1次)出土遺物(1)	22	PL. 60	延岡城内遺跡(第25次)近景(西から)	36
PL. 36	恒富本村遺跡(第1次)出土遺物(2)	22	PL. 61	延岡城内遺跡(第25次)調査風景(南西から)	36
PL. 37	吉野遺跡(第9次)調査地遠景(向かいの丘陵頂点)	23	PL. 62	延岡城内遺跡(第25次)土層断面(トレンチ3・東から)	36
PL. 38	吉野遺跡(第9次)T1集石検出	24	PL. 63	延岡城内遺跡(第25次)出土遺物	36
PL. 39	吉野遺跡(第9次)T1南壁土層	24	PL. 64	馬場畑遺跡調査区近景(墳丘上から)	37
PL. 40	吉野遺跡(第9次)T3褐色ローム層遺物出土状況	24	PL. 65	馬場畑遺跡T1周溝検出(1)	39
PL. 41	吉野遺跡(第9次)T1AT下白斑ローム層遺物出土状況	24	PL. 66	馬場畑遺跡T1周溝と墳丘	39
PL. 42	吉野遺跡(第9次)SI1底石	25	PL. 67	馬場畑遺跡T1周溝検出(2)	40
PL. 43	吉野遺跡(第9次)SI2底石	25	PL. 68	馬場畑遺跡T1周溝土層(1)	40
PL. 44	吉野遺跡(第9次)出土石器(1)	27	PL. 69	馬場畑遺跡T1周溝土層(2)	40
PL. 45	吉野遺跡(第9次)出土石器(2)	27	PL. 70	馬場畑遺跡T2土層	40
PL. 46	大武遺跡第2次近景(北東から)	29	PL. 71	馬場畑遺跡T3土層	40
PL. 47	東原遺跡(第9次)近景(北から)	30	PL. 72	馬場畑遺跡T4周溝完堀	40
PL. 48	東原遺跡(第9次)近景(南から)	31	PL. 73	馬場畑遺跡調査地から墳丘を望む	40
PL. 49	東原遺跡(第9次)調査風景(北から)	31	PL. 74	馬場畑遺跡調査地近景(調査前・墳丘上より)	40
PL. 50	東原遺跡(第9次)土層断面(トレンチ5・北東から)	31	PL. 75	北浦町三川内上塚第1地点調査状況(南から)	41
PL. 51	東原遺跡(第9次)出土遺物	31			

番号	遺　跡　名	所　在　地	調査原因	調査面積	開始日	終了日
1	延岡城下町遺跡（第5次）	南町2丁目4-1	寺院建設	18.0㎡	20120423	20120425
2	浄土寺遺跡（第1次）	大貫町5丁目1547番地、1672番地	その他の建物	21.3㎡	20120516	20120530
3	日の出遺跡（第3次）	日の出町1丁目21番3、21番12	個人住宅建設	34.6㎡	20120516	20120524
4	東原遺跡（第8次）	北方町川水流卯972番地	中学校武道場及 給食センター建設	28.9㎡	20120703	20120711
5	荒田遺跡	小峰町7430番1	携帯電話基地局建設	13.1㎡	20120803	20120807
6	柳瀬遺跡	北方町北久保山字柳瀬2433番3	携帯電話基地局建設	16.7㎡	20120816	20120824
7	林遺跡	伊形町2670番1	携帯電話基地局建設	18.0㎡	20120829	20120904
8	宮野浦菅田遺跡	北浦町宮野浦字菅田708番1	携帯電話基地局建設	10.6㎡	20120829	20120831
9	惣泉寺跡（第1次）	古城町2丁目7番6、7番9	個人住宅建設	20.0㎡	20120924	20120926
10	野田町八田遺跡（第6次）	野田町4821-16	個人住宅建設	22.0㎡	20120920	20120921
11	恒富本村遺跡（第1次）	恒富町1丁目7-9	個人住宅建設	10.0㎡	20120928	20121003
12	吉野遺跡（第9次）	吉野町1584-1	携帯電話基地局建設	29.0㎡	20121002	20121012
13	大武遺跡（第2次）	牧町4692-1	その他の建物	42.0㎡	20121029	20121101
14	東原遺跡（第9次）	北方町川水流卯964-16	個人住宅建設	12.0㎡	20121106	20121108
15	延岡城内遺跡（第24次）	本小路246番2、246番4	その他の開発 (土地売買)	22.0㎡	20121112	20121116
16	延岡城内遺跡（第25次）	天神小路212番2	その他の開発 (土地売買)	15.0㎡	20121119	20121120
17	馬場畑遺跡	稲葉崎町1793-2　外	個人住宅建設	17.6㎡	20121119	20121121
18	北浦町三川内上塚第1地点	北浦町三川内字向ノ原4933番1	携帯電話基地局建設	4.0㎡	20130121	20130124
19	稲葉崎町5丁目社ヶ原地点	稲葉崎町5丁目712番1	その他の建物	調査予定	20130304 (予定)	20130306 (予定)
20	南浦村古墳（第4次）	熊野江町2453-1　外	範囲確認	調査予定	20130311 (予定)	20130329 (予定)

第１表　平成24年度市内遺跡発掘調査地一覧



1．延岡城下町遺跡（第５次）
2．浄土寺遺跡（第１次）
3．日の出遺跡（第３次）
4．東原遺跡（第８次）
5．荒田遺跡
6．柳瀬遺跡
7．林遺跡
8．古宮野浦菅田遺跡（第１次）
9．惣泉寺跡（第１次）
10．野田町八田遺跡（第８次）
11．恒富本村遺跡（第１次）
12．吉野遺跡（第９次）
13．牧町第１地点
14．東原遺跡（第９次）
15．延岡城内遺跡（第24次）
16．延岡城内遺跡（第25次）
17．馬場畑遺跡
18．上塚第１地点
19．稲葉崎５丁目社ヶ原地点
20．南浦村古墳

Fig.1　平成24年度市内遺跡発掘調査分布図（1/200,000）

第１章　はじめに

１．はじめに

延岡市は宮崎県の北部に位置し、九州山地や大崩・祖母・傾山系に源を発し日向灘に注ぐ五ヶ瀬川・北川・祝子川の下流域にあたる。これらの河川によって形成された沖積平野に市街地や住宅地、工業地帯が広がり、宮崎県北部の中心都市となっている。豊かな自然環境を利用し、古くから農林水産業が盛んである。また、豊富な水資源を利用した電気化学工業を中心とする県内有数の工業集積地でもある。中心市街地には近世延岡藩主の居城であった延岡城跡があり、「千人殺し」と呼ばれる高石垣を中心とした石垣群が残り、現代の都市景観と歴史的景観が融合する街並みが形成されている。

本年度における本市の埋蔵文化財保護行政は、民間開発に伴う事業照会は引き続き減少傾向になる一方で、公共事業は、埋蔵文化財の調査が終了した古川町・岡富町での区画整理事業、北方町での新最終処分場建設等の大規模事業が引き続き進捗中である。今年度は、延岡市役所庁舎建設に伴う発掘調査が行われている。

本年度は20箇所の試掘・確認調査を、開発事業やその関連事業等と埋蔵文化財保護との調整資料を得るために実施した。

２．調査の組織

調査主体	延岡市教育委員会	
	教　育　長	町田訓久
	教育部長	甲斐享博
	文化課長	佐藤憲史
	文化課長補佐兼文化振興係長	鵜島孝幸
	文化課文化財係長	山田　聡
庶務担当	文化振興係主査	阿部洋子
調査担当	文化財係専門員	小野信彦
	文化財係主任主事	尾方農一
	文化財係主事	甲斐康大
調査指導	宮崎県教育委員会文化財課、宮崎県埋蔵文化財センター	

発掘作業員

安藤登美子　甲斐敦彦　甲斐カツキ　甲斐ひとみ　甲斐正子　甲斐如高　工藤洋子
白石良子　中島千賀　林田裕子　柳田伴子　矢野勇　矢野ヒロエ　山内伸夫　佐藤きみゑ
甲斐力　甲斐操　甲斐美智代　原田洋子

整理作業員

敷石サヨ子　藤本千鳥

なお、調査にあたって地権者の方をはじめ、地区住民の方々、開発部局・関係機関及び開発事業者等に多くの配慮をいただいた。

第２章　調査の記録

１．南浦村古墳（第３次）

所 在 地	延岡市熊野江町2453－1外	調査面積	200.6㎡
調査原因	範囲確認	担 当 者	尾方
調査期間	20120305～20120330	処　　置	一部指定解除

（１）位置と環境

南浦村古墳の所在する熊野江町は、延岡市の東の海岸線に立地する。海岸線は山地が海に迫るリアス式海岸を形成し、良好な漁港に恵まれ、古くから水産業が盛んな地域である。近年は入江の地形を活かし、栽培漁業が盛んである。集落の南には砂浜が広がり、海水浴場となっている。東には南に向かい岬が突き出ている。南浦村古墳は、この岬の中央部西側に位置する。以前は礫石海岸であったが、現在は護岸がなされ漁港となっている。

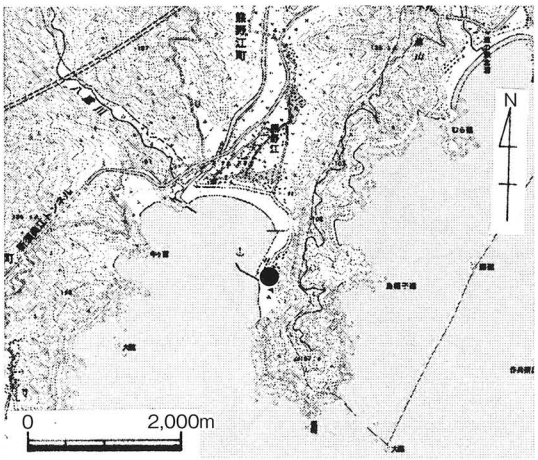
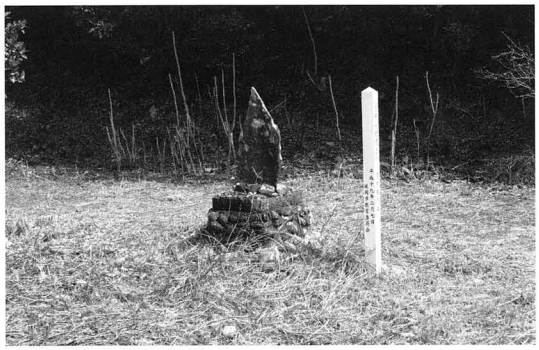


Fig.2　南浦村古墳（第３次）位置図（1/50,000）

南浦村古墳は現在までに２回の調査が行われ、６基の箱式石棺が出土している。1940（昭和15）年に水産加工場の工事の際、箱式石棺５基が発見され、石川恒太郎氏が調査を行っている（第１次）。石棺の発見時は棺上に積石があったと伝えられる。既に発見されていた４基の石棺の人骨は１基の石棺に納められ、埋め直されていた。石川氏は２基の調査を行っており、出土した歯を歯科医師に鑑定依頼し、成人のものと小児のものであるとの結果であった。1941（昭和16）年６月23日「南浦村古墳」として宮崎県指定史跡となる。1979（昭和54）年には、県栽培漁業センター（現：公益法人宮崎県水産振興協会敷地内）建設中に石棺１基が新たに発見され、石川恒太郎氏の調査により、人骨１体、土器片２片が出土している（第２次）。南浦村古墳は指定以降、第二次世界大戦や南浦村の延岡市への編入合併などの時代の趨勢に左右される中、保存策が講じられないまま開発が進み、第２次調査時には第１次調査時に出土した石棺は全て失われていた。同年８月30日には一部指定解除となり、地番指定から範囲指定（1,751㎡）となる。現存する石棺は第２次調査の１基が宮崎県水産振興協会敷地内に残るのみで、第１次調査の痕跡として残るのは、指定地境に建てられている石碑で、石棺の蓋石を利用したと云われる。この石碑周辺に他の石棺等で出土した人骨や土器を集めたとも伝わっている。

PL.1　南浦村古墳近景（南西から）


PL.2　南浦村古墳指定地境石碑

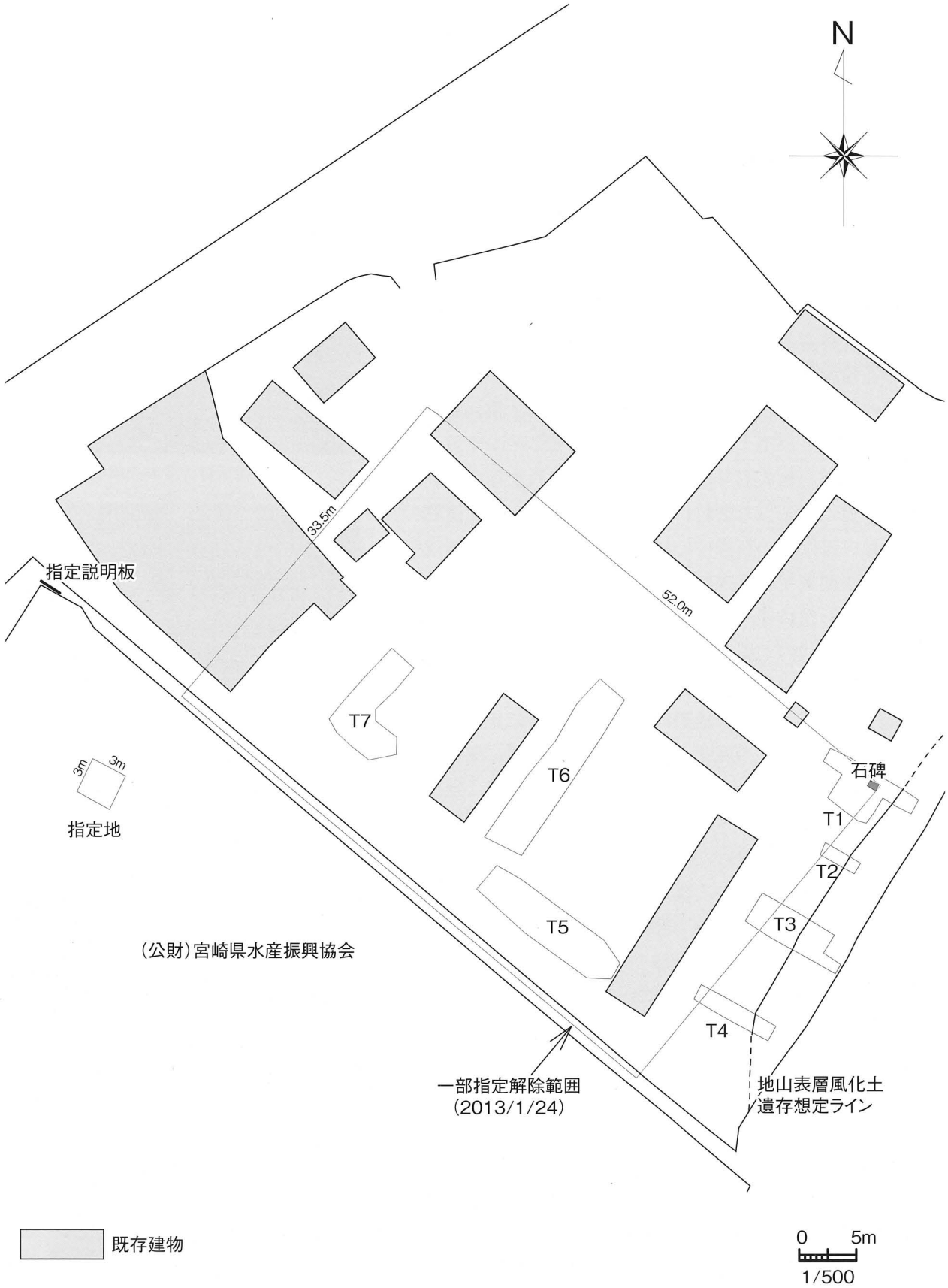


Fig.3　南浦村古墳（第３次）調査区配置図（1/500）

（2）調査の概要

現地権者である熊野江生産森林組合から、指定地内にある建物を撤去したいとの申し入れがあり、その際に指定地の再確認があった。県文化財課とも協議を行い、現状把握のため確認調査を行うこととなった。トレンチは７箇所を設定した（Fig.3）。丘陵裾部は一段高くなっており、過去の開発による影響が比較的少ないと判断し、地形の遺存状況を判断するために丘陵に直交する方向に４箇所のトレンチ（T1～4）を設定した。Ｔ５～７の３箇所は、Ｔ１～４で確認した土層断面の補足を行い、昭和期の開発による破壊範囲を確認するために設定した。Ｔ１は現存する石碑を中心に設定した。石碑周辺に出土した石棺等を寄せたとも伝えられており、その確認も兼ねての調査となった。石碑を中心に第13層、第14層に土器片（Fig.5）が出土した。同層からはビニールやガラス片なども出土しており、開発時に埋められたものと判断され、前述の証言を裏付ける結果となった。また遺物の出土は、ほぼこの石碑中心に限定された。出土土器は弥生時代後期後半～終末期に位置付けられる。発見時の状況からは石棺に伴っていたものと断定できないが、調査時に弥生時代の土器が出土していたとする石川氏の見解と齟齬はない。

Ｔ１～４において旧地形は第16層～18層に見られる。地山の黄褐色岩土の風化土を中心とした層で、開発により大きく失われていた。旧地形の遺存はFig.3に地山表層風化土遺存想定ラインで図示した。Ｔ５～７では、約１～２ｍに撹乱を受けた層が確認され、開発によって石棺の全てが失われていることが確認された。

調査において、石碑の下部が空洞であることが判明した。蓋となっている石碑上部を外すと内部に人骨の納められた２つの木箱が確認された。石碑の土台には昭和三十年三月と刻まれており、何らかの理由で、この時期に石碑内に人骨を納め直したものと考えられる。

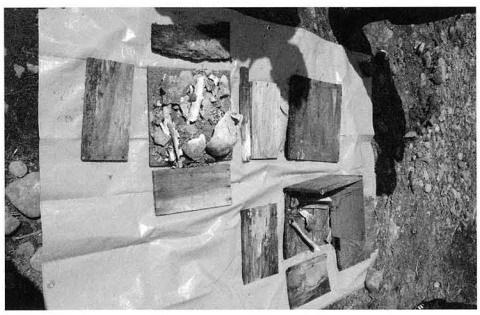
調査結果から、既に５基の石棺は失われており、また開発により旧地形も失われており、遺構の残存する可能性は極めて低いと判断される。

今回の調査結果をうけて、宮崎県教育委員会は一部指定解除を2013（平成25）年１月24日付け県公報第2456号告示で行った。これにより、南浦村古墳の指定地は、公益法人敷地内の９㎡のみとなった。

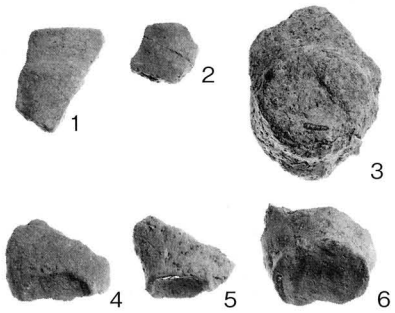
PL.3　南浦村古墳調査風景Ｔ１

PL.4　南浦村古墳調査風景Ｔ７

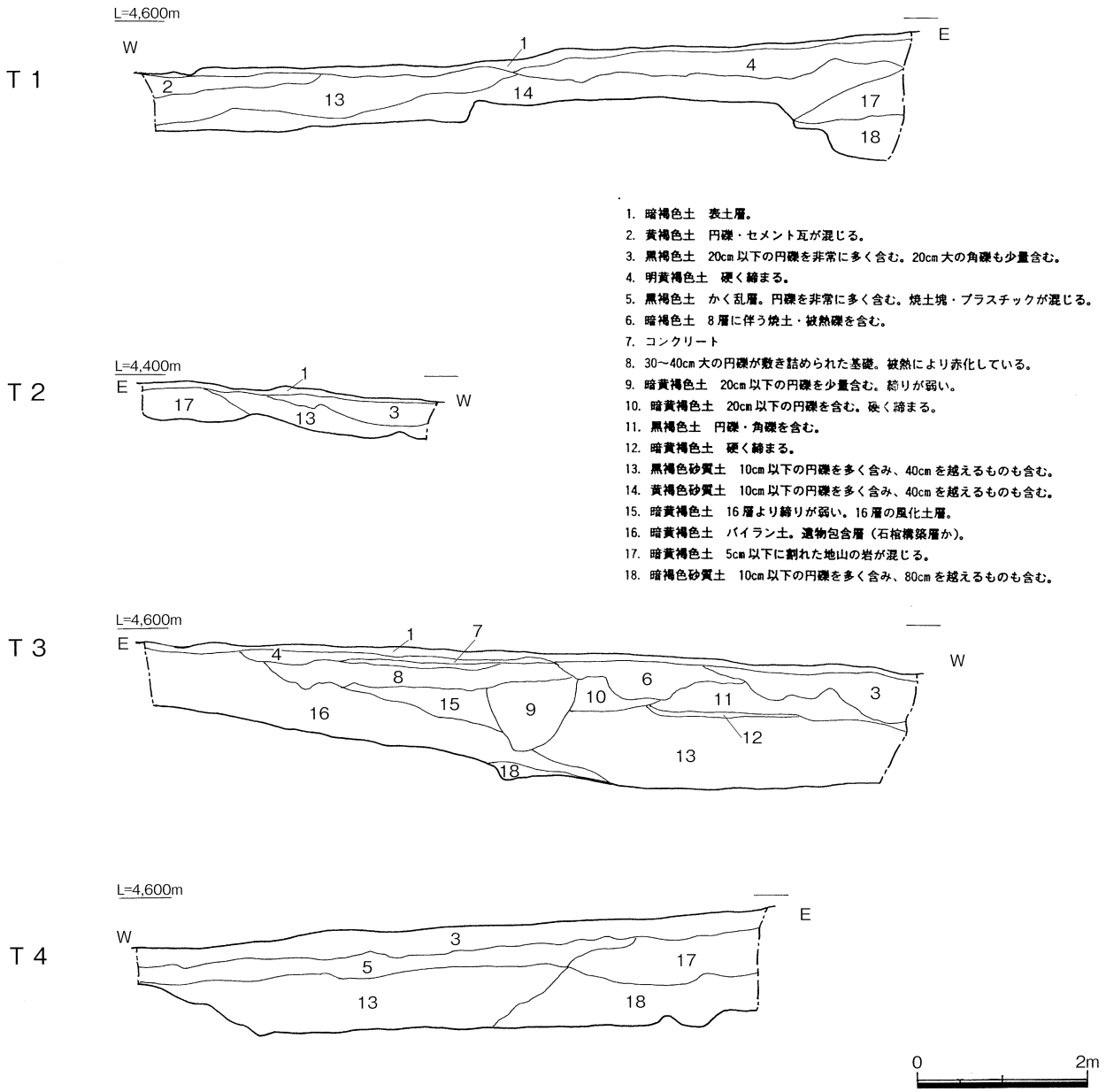
PL.5　南浦村古墳石碑開蓋状況



PL.6　南浦村古墳人骨取上状況（縦）



PL.7　南浦村古墳出土遺物



1. 暗褐色土　表土層。
2. 黄褐色土　円礫・セメント瓦が混じる。
3. 黒褐色土　20cm以下の円礫を非常に多く含む。20cm大の角礫も少量含む。
4. 明黄褐色土　硬く締まる。
5. 黒褐色土　かく乱層。円礫を非常に多く含む。焼土塊・プラスチックが混じる。
6. 暗褐色土　8層に伴う焼土・被熱礫を含む。
7. コンクリート
8. 30～40cm大の円礫が敷き詰められた基礎。被熱により赤化している。
9. 暗黄褐色土　20cm以下の円礫を少量含む。締りが弱い。
10. 暗黄褐色土　20cm以下の円礫を含む。硬く締まる。
11. 黒褐色土　円礫・角礫を含む。
12. 暗黄褐色土　硬く締まる。
13. 黒褐色砂質土　10cm以下の円礫を多く含み、40cmを越えるものも含む。
14. 黄褐色砂質土　10cm以下の円礫を多く含み、40cmを越えるものも含む。
15. 暗黄褐色土　16層より締りが弱い。16層の風化土層。
16. 暗黄褐色土　バイラン土。遺物包含層（石棺構築層か）。
17. 暗黄褐色土　5cm以下に割れた地山の岩が混じる。
18. 暗褐色砂質土　10cm以下の円礫を多く含み、80cmを越えるものも含む。

Fig.4　南浦村古墳（第３次）Ｔ１～４土層断面図（1/80）

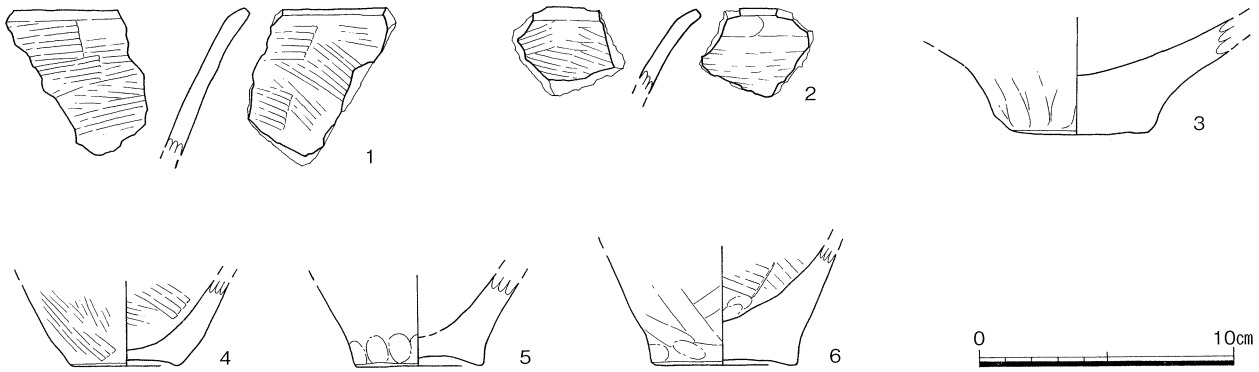


Fig.5　南浦村古墳（第３次）Ｔ１石碑周辺出土遺物実測図（1/３）

2．延岡城下町遺跡（第５次）

所 在 地	南町２丁目4－1	調査面積	30.5㎡
調査原因	寺院建設	担 当 者	小野
調査期間	20120423～20120425	処　　置	工事実施

（1）位置と環境

延岡城（縣城）は1601～1603年にかけて高橋元種によって築城された。元種は関ヶ原の戦いに参加し、鉄砲の普及による戦法の変化から石垣や水堀を主体とする城郭の必要性を認識し、新たな城郭の整備を行った。同時期に、城の東側に北町、中町、南町の３町がつくられ、武家屋敷地として五ヶ瀬川の北側に北小路、城下に本小路、桜小路が整備されている。

その後、元種は罪人隠匿を理由に改易され、有馬氏が肥前国（現長崎県）から入封し、直純、康純、永純（清純）と三代続いた。

その間に、縣城は延岡城に改名し、城下町も大幅に拡張整備された。直純の時代には、元町、紺屋町、博労町の三町が完成した。康純の代には城の修復に伴う大整備が行われ、本丸東側に三階櫓、本丸登り口に二階門櫓が完成している。

また、柳沢町も整備され、いわゆる延岡七町が完成した。

以降、城下町の整備は17世紀中頃まで続き完成する。

現在の延岡市街地の原型は、この時に着手された城下町の町割が活かされているが、市街地化が進み、その面影は残っていない。

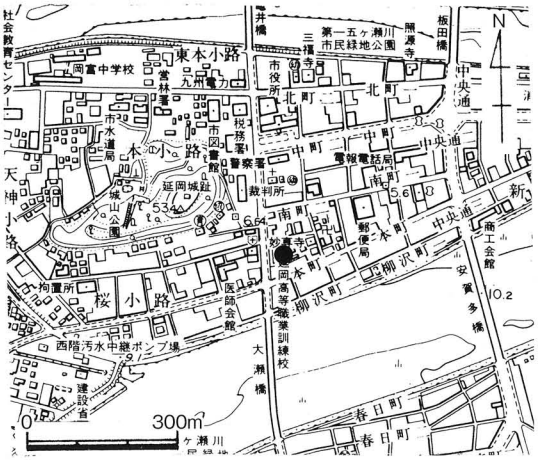


Fig.6　延岡城下町遺跡（第5次）位置図（1/15,000）

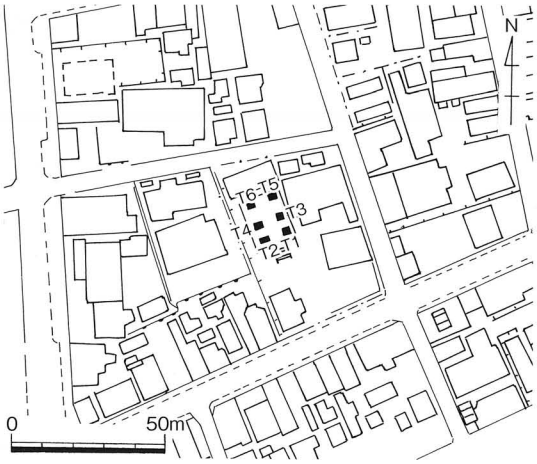
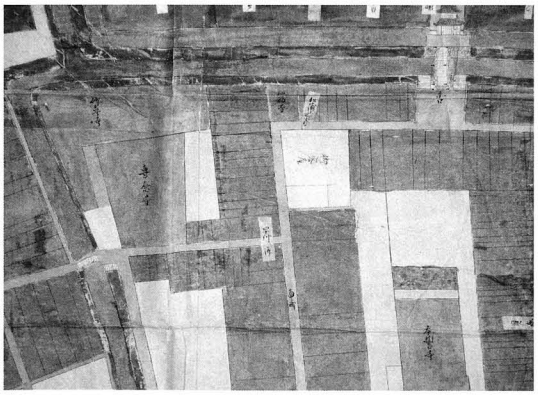


Fig.7　延岡城下町遺跡（第5次）調査区配置図（1/2,500）

（2）調査の概要

寺院建設に伴い、確認調査を実施した。建物がほぼ同位置に建てられることから、コンクリートの基礎の間に６箇所のトレンチを設定し調査を行った。現地表から約１ｍまで掘り下げたが、従前の建設時に埋められた岩砕や砂・砂利等の河川性の堆積層が検出された。遺構は検出されていない。少量の陶磁器等が出土している



PL.8　明治元年前後延岡藩士族屋敷図（明治大学蔵）

が、流れ込みと判断される。

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

陶磁器

（5）まとめ

今回の調査では、遺構は検出されていないが、引き続き周辺の開発には留意が必要な地区である。

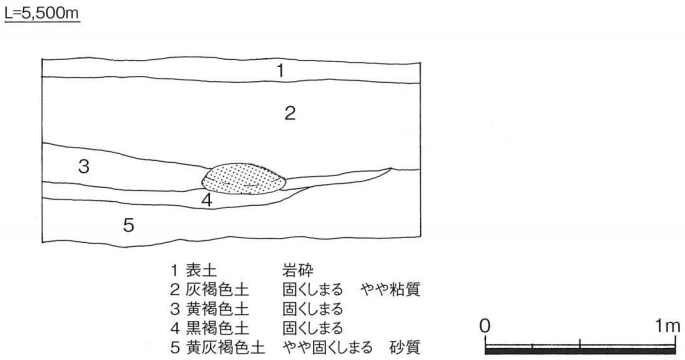


Fig.8　延岡城下町遺跡（第5次）土層断面図（1/40）

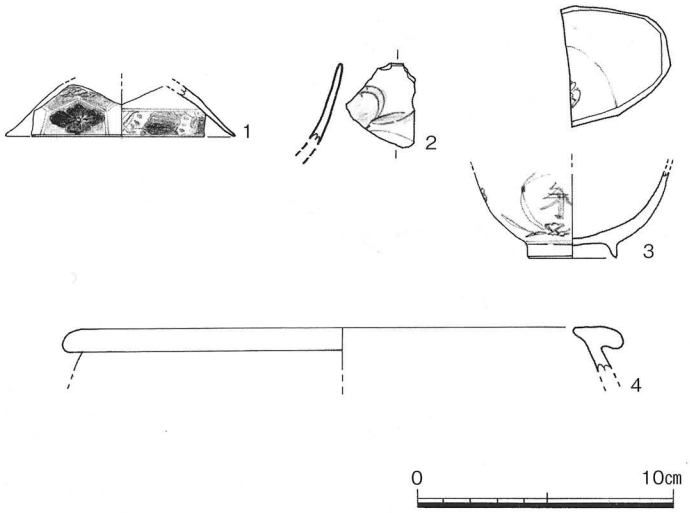
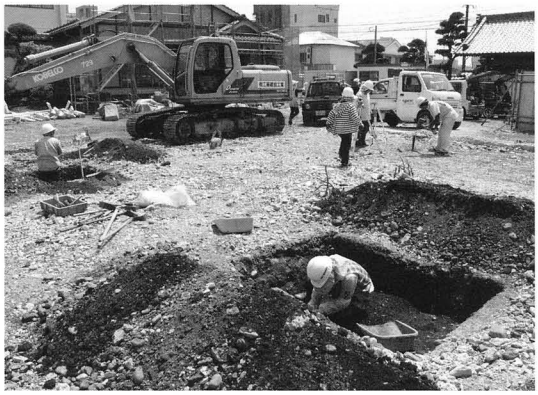
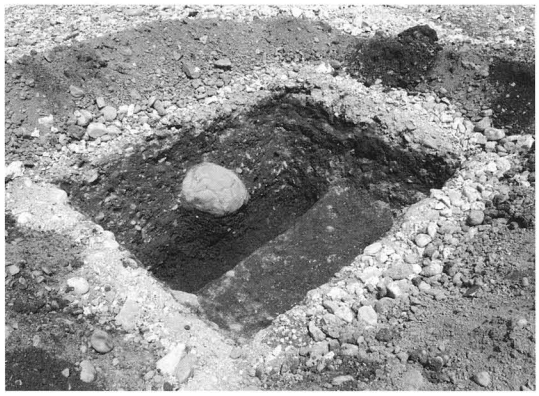


Fig.9　延岡城下町遺跡（第5次）出土遺物実測図（1／3）

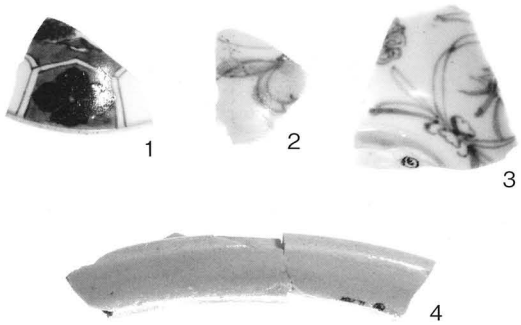
PL.9　延岡城下町遺跡（第５次）近景（北東から）



PL.10　延岡城下町遺跡（第5次）調査風景（北西から）



PL.11　延岡城下町遺跡（第5次）土層断面（トレンチ3・南から）



PL.12　延岡城下町遺跡（第５次）出土遺物

3．浄土寺遺跡（第１次）

所 在 地	大貫町５丁目1547・1672番地	調査面積	21.3㎡
調査原因	その他の建物（集合住宅建設）	担 当 者	尾方
調査期間	20120516～20120530	処　　置	工事実施

（1）位置と環境

当遺跡は国史跡南方古墳群（大貫支群）の立地する丘陵の南裾部にあたる。大貫支群は、延岡市街地から西に位置する標高約20mの丘陵上に展開する前方後円墳１基と円墳８基からなる古墳群である。第39号墳が前方後円墳で、浄土寺山古墳とも呼ばれている。1929（昭和４）年に調査され、粘土槨から多くの副葬品が出土し、延岡平野部の初期の首長墓として重要な古墳である。また同支群の第24号墳は宮崎県北では最大規模の横穴式石室を有している。大貫支群の立地する丘陵は、南西から北東に台地状になだらかに延びる丘陵である。今回の調査地点は、その丘陵の南裾部で標高は約６mである。丘陵の北縁辺部では、縄文早期の大貫貝塚が確認されている。

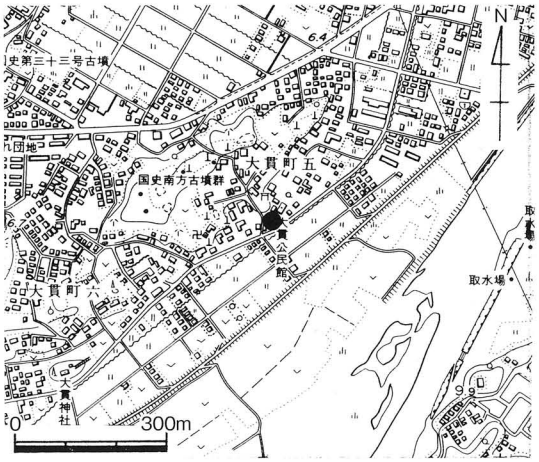


Fig.10　浄土寺遺跡（第1次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

３箇所のトレンチを設定した。各トレンチ共に地表下約１mまで客土であった。その下層に水田基盤層が２期にわたって観察される。出土する遺物は近代の陶磁器や現代のガラス製品であった。

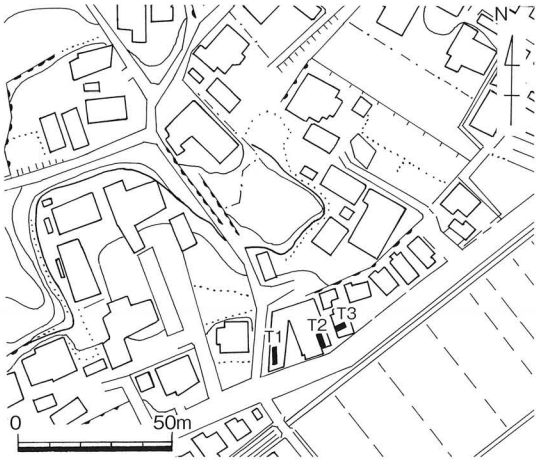


Fig.11　浄土寺遺跡（第1次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

陶磁器及びガラス製品等

（5）まとめ

現代の水田を埋め立てた造成地であった。水田層下は河川性の堆積が伺われ、遺構が検出される可能性は極めて低いと判断される。しかし、周辺の遺跡の分布等を考慮すると、付近の開発には今後も留意する必要がある。

PL.13　浄土寺遺跡（第１次）近景（南東から）

4．日の出町遺跡（第３次）

所 在 地　延岡市日の出町１丁目21番3、21番12　　調査面積　34.6㎡
調査原因　個人住宅建設　　担 当 者　甲斐
調査期間　20120516～20120524　　処　　置　保存

（1）位置と環境

日の出町遺跡の東側では五ヶ瀬川と祝子川という一級河川が合流し、西側には上ノ坊古墳が存在した富美山丘陵がある。地形的には日向灘に面する砂丘帯の後背湿地である。一帯は、昭和の区画整理以前には水田･耕作地帯であった。

本遺跡やその付近では過去に３度発掘調査が行われ、弥生時代の遺物が確認されている。

（2）調査の概要

調査地の標高は約4.0mである。トレンチを３箇所設定し、人力・重機での掘削を行った。

表層には今回の建物解体に伴う20～40cmの造成土があり、直下は以前の建築に伴う40～70cmの整地層であった。その下、地表下60～80cmに遺物包含層が残っていた。

Ｔ１　４層の下位から５層にかけて遺物が出土した。４層下位では土師器片とともに須恵器が出土した。宝珠摘みを有するタイプの杯蓋片などから、４層は古墳時代終末期に位置付けられる。５層は褐色や黒褐色を呈する粘質土層である。層の上位から中位にかけては遺物が多く、特にタタキ目の残る平底の甕や壺が目立つ。大型高杯の脚部片の特徴も併せて考えると、５層は弥生時代終末期～古墳時代前期といえる。

この包含層は、畦畔や明瞭な稲株痕が認められないが、水田の可能性がある。５層上面のレベルは約3.1mでほぼ水平であった。溝状遺構１は５層を深さ30～40cmりこむ形で北西－南東方向に直線的に伸びている。

Ｔ２　地層的には、Ｔ１よりも砂を多めに含む傾向が認められた。溝状遺構１の延長部分が確認できたが、遺物の量は相対的に少なかっ

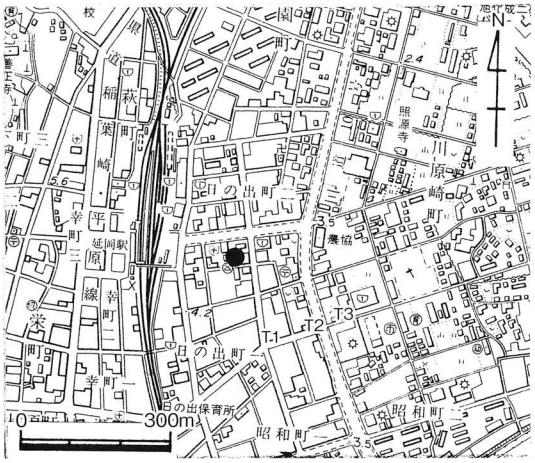


Fig.12　日の出町遺跡（第3次）位置図（1/15,000）

Fig.13　日の出町遺跡（第3次）調査区配置図（1/2,500）

PL.14　日の出町遺跡（第3次）調査地近景（南東から）

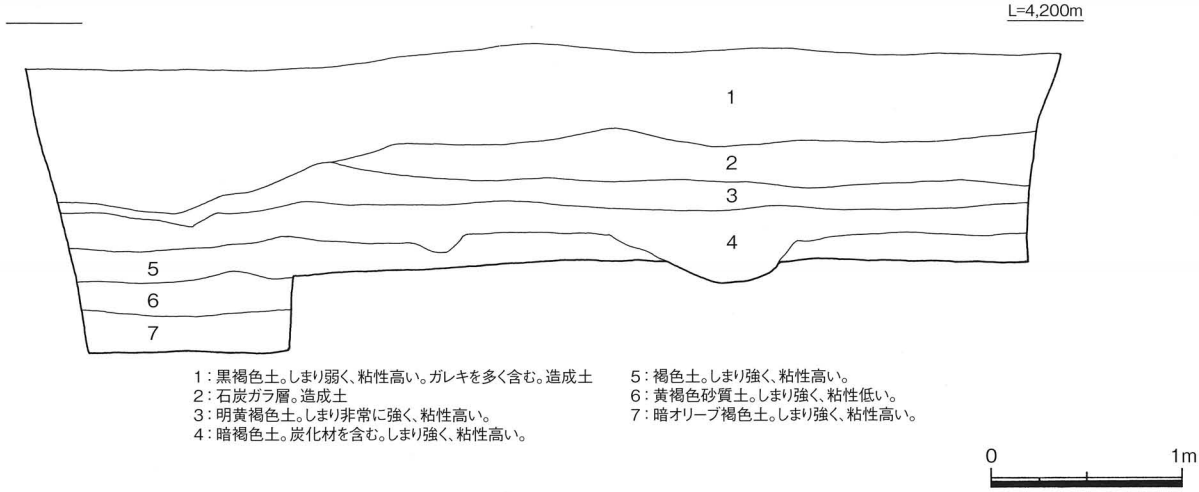


Fig.14　日の出町遺跡（第３次）Ｔ２南壁土層断面図（1/40）

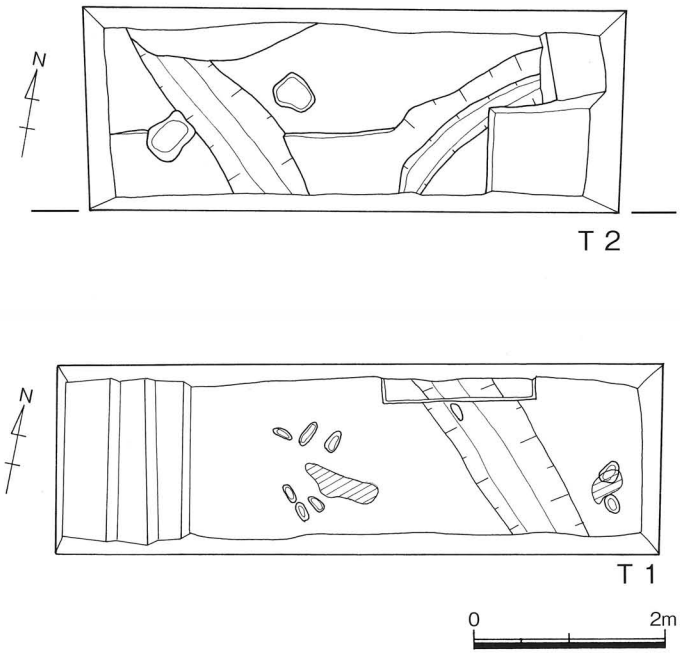
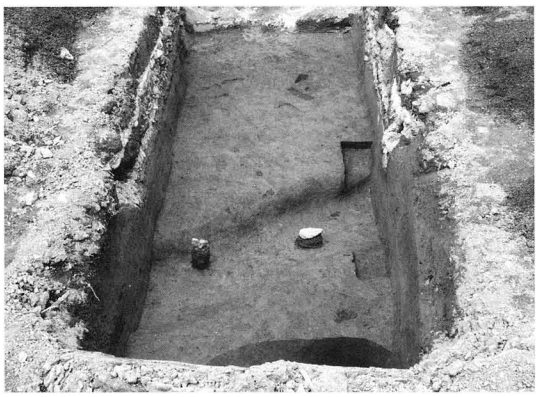
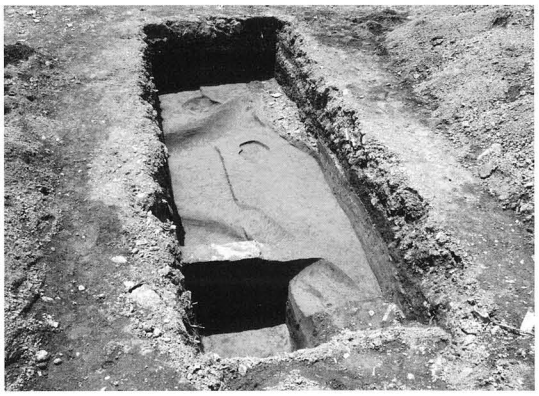


Fig.15　日の出町遺跡（第３次）トレンチ配置図（1/80）

PL.15　日の出町遺跡(第3次)T1溝状遺構1土層(南から)



PL.16　日の出町遺跡(第3次)T1溝状遺構1完掘(東から)



PL.17　日の出町遺跡(第3次)T2－5層上面遺構完掘(東から)

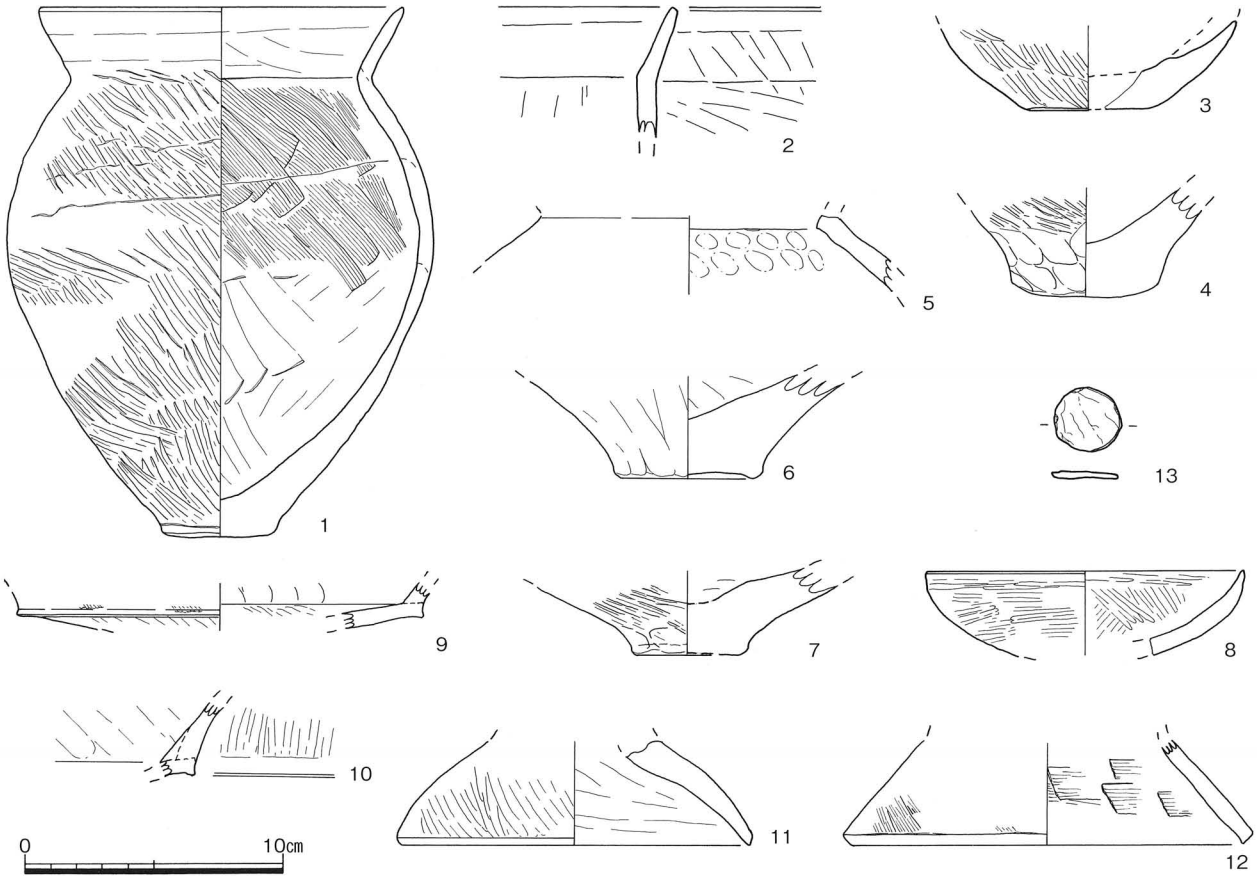
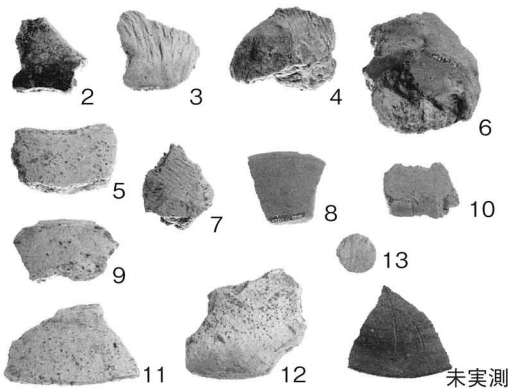


Fig.16　日の出町遺跡（第３次）出土遺物実測図（1/3）

PL.18　日の出町遺跡(第３次)出土遺物(1)



PL.19　日の出町遺跡(第３次)出土遺物(2)

た。また、トレンチの西側において北東－南西方向に延びる溝状遺構２を検出した。

（３）検出遺構

溝状遺構２条

（４）出土遺物

古墳時代土器片、須恵器片、近世・近代の磁器片

（５）まとめ

今回の確認調査によって、周辺に古墳時代の水田面が存在する可能性が高くなった。なお、調査地の表土は過去に造成されており今回の工事では地下遺構面への影響はない。

5．東原遺跡（第８次）

所 在 地	北方町川水流卯972番地	調査面積	28.9㎡
調査原因	学校施設増築	担 当 者	尾方
調査期間	20120703～20120711	処　　置	工事立会

（１）位置と環境

当遺跡は五ヶ瀬川に向かって、南へ緩やかに傾斜する台地上に位置する。五ヶ瀬川との比高差は約50mを測る。延岡市立北方中学校の敷地にあたり、古くから埋蔵文化財の包蔵地として知られている。敷地の南東部は市道改良工事に伴い、東原遺跡（第７次）調査が2009（平成21）年に行われている。第７次調査では、古墳時代後期の住居址１軒が検出されている。また、旧石器時代～古墳時代にかけての石器・土器等が出土している。

Fig.17　東原遺跡（第８次）位置図（1/15,000）

（２）調査の概要

３箇所のトレンチを設定した。トレンチ１が最も遺存状況が良好であったが、旧石器時代の包含層である褐色ロームの上部まで撹乱を受けていた。調査区の北、標高が高くなるほど土層の堆積状況は悪く、トレンチ３ではＡＴ（姶良丹沢火山灰）下のローム層まで撹乱を受けていた。トレンチ１より旧石器の剥片が出土しているが、３点のみであった。

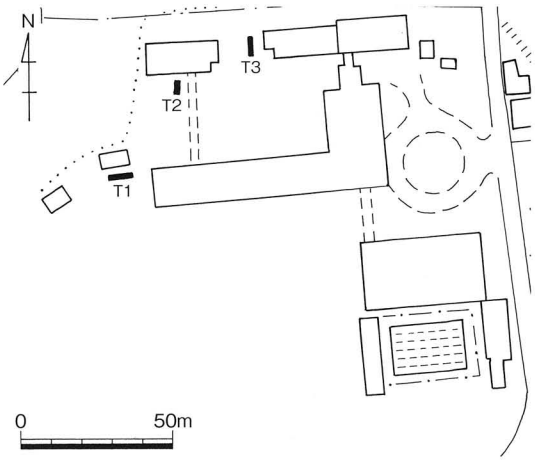


Fig.18　東原遺跡（第8次）調査区配置図（1/2,500）

（３）検出遺構

なし。

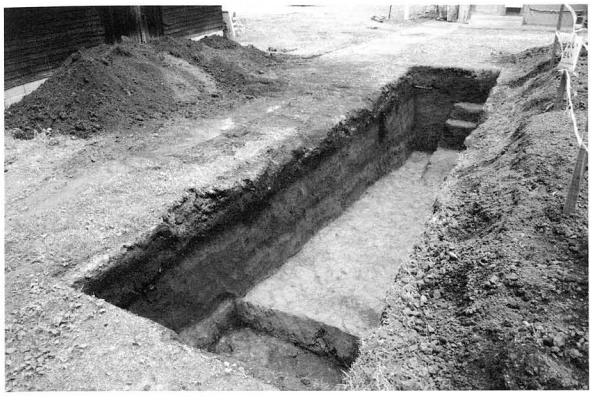
（４）出土遺物

旧石器剥片

（５）まとめ

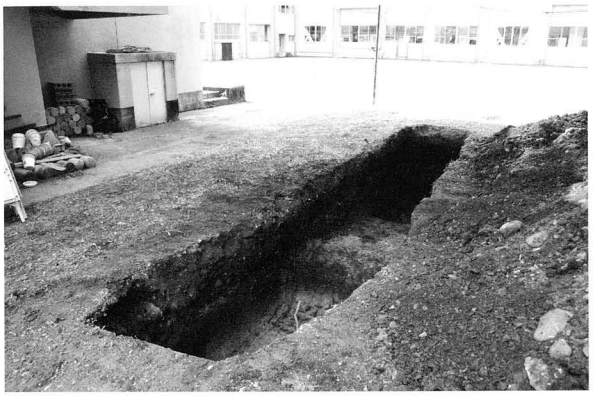
土層の堆積状況から、現地形への造成時に削平を受けていることが伺える。第７次調査地付近の敷地東南側は、一段高くなっており遺存が良いと判断される。ただし、旧石器の包含層は遺存している可能性が高く、特に敷地の南側は今後の開発にも充分な注意が必要であろう。

PL.20　東原遺跡（第8次）調査風景（トレンチ2）

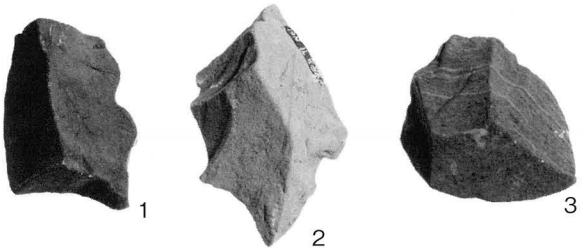


PL.21　東原遺跡(第8次)土層堆積状況(トレンチ1)

PL.22　東原遺跡(第8次)土層堆積状況(トレンチ2)



PL.23　東原遺跡(第8次)土層堆積状況(トレンチ3)



PL.24　東原遺跡（第８次）出土遺物

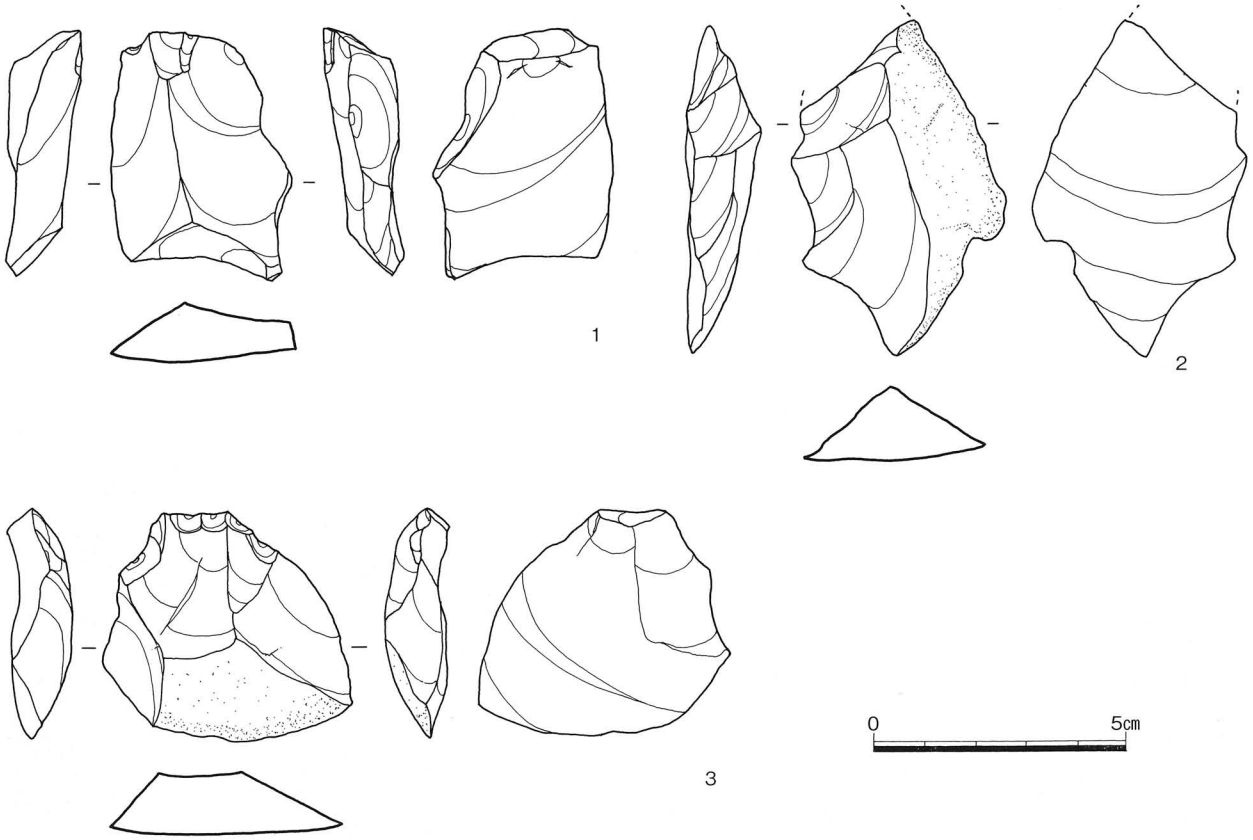


Fig.19　東原遺跡（第８次）出土遺物実測図（2/3）

6．荒田遺跡

所 在 地	小峰町7430番1	調査面積	13.1㎡
調査原因	携帯電話無線基地局	担 当 者	尾方
調査期間	20120803～20120807	処　　置	工事実施

（1）位置と環境

当遺跡は小峰町と天下町の境に位置する。市内を流れる五ヶ瀬川は、市の中心部から西へ約3.4km の地点で五ヶ瀬川と大瀬川に分岐する。此の地点で五ヶ瀬川は大きく流れを変え、北に流れていく。その左岸に天下町が所在し、国指定史跡南古墳群の天下支群をはじめ、多くの遺跡が分布している。特に荒田遺跡の所在する台地上には、国史跡南方古墳群今井野支群や今井野遺跡、天下城山遺跡等と旧石器時代～中世と長きに渡る生活の痕跡が残されている。荒田遺跡は、その台地から短く北に突き出す舌状丘陵に所在する。今回の調査地点は、その丘陵の西裾部にあたる。すぐ西には、五ヶ瀬川の支流である行縢川が流れている。行縢川の左岸には水田地帯が広がっている。

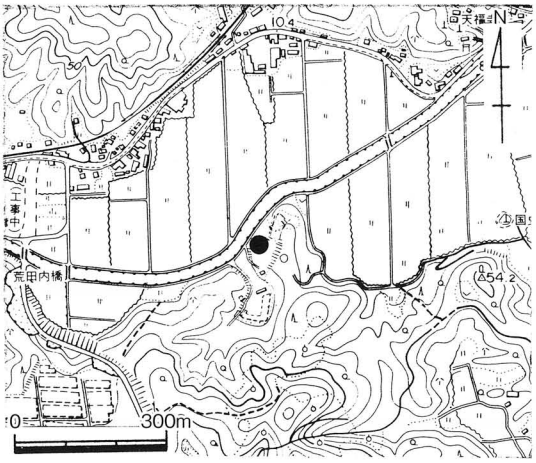


Fig.20　荒田遺跡位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

調査は建設予定地の南端、北端付近にそれぞれ各１箇所計２箇所のトレンチを設定し行った。両トレンチ共に地表から約1.3m以上の客土が確認された。調査地の東側が削平を受けている様子で旧地形の遺存も無かった。

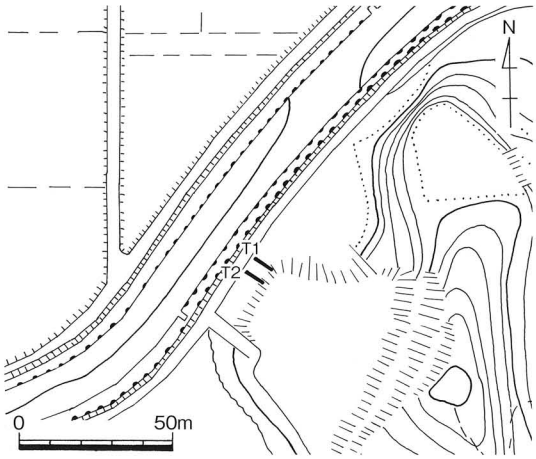


Fig.21　荒田遺跡調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

なし

（5）まとめ

今回は、丘陵上の調査でなく、また既に造成されていた地点であった。周辺開発、特に丘陵上の開発等には充分な注意が必要である。

PL.25　荒田遺跡近景（南西から）

7．柳瀬遺跡

所 在 地	北方町北久保山字柳瀬2433番3	調査面積	16.7㎡
調査原因	携帯電話無線基地局	担 当 者	尾方
調査期間	20120816～20120824	処　　置	工事実施

（1）位置と環境

当遺跡は五ヶ瀬川の支流、曽木川の右岸に切り立つ丘陵上に所在する。丘陵頂部は緩斜面になり、畑作や栗林が営まれている。標高は74mを測る。

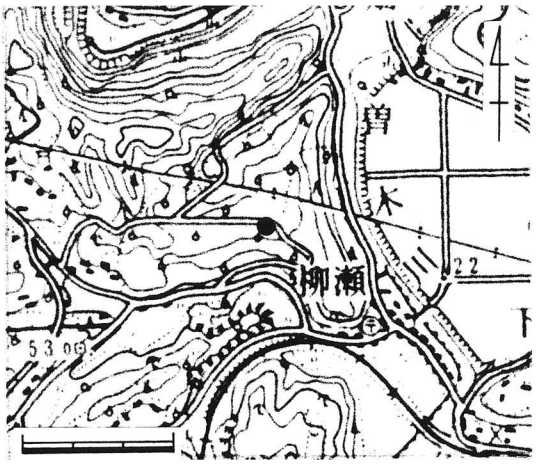


Fig.22　柳瀬遺跡位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

開発予定地の南端に東西に、西端に南北にトレンチを設定し、２箇所のトレンチを直交させた。調査を行った。両トレンチともに開墾時に撹乱を受けており、地表から約120cm の深さまで撹乱が及んでいた。ＡＴ層下位の白斑ローム層（ブラックバンド）まで撹乱されていた。撹乱土中から少量の押型文土器小片、旧石器が出土している。

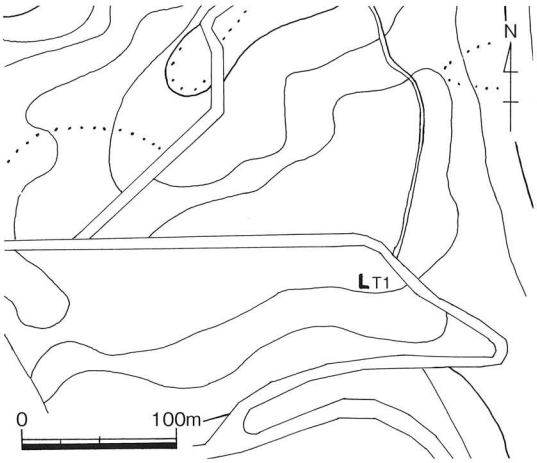


Fig.23　柳瀬遺跡調査区配置図（1/5,000）

（3）検出遺構

なし

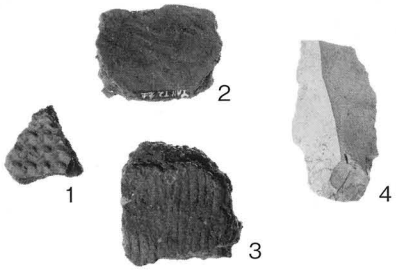
（4）出土遺物

押型文土器片

ナイフ形石器（基部加工）

（5）まとめ

土層の堆積状況から、現地形への造成及び開墾時に大きく撹乱されていることが伺えた。ただし、撹乱土中に遺物が混じることから、周辺に遺跡が所在する可能性は高く、今後とも周辺地域での開発には留意が必要である。



PL.26　柳瀬遺跡（第１次）出土遺物

PL.27　柳瀬遺跡近景（北から）

8．林遺跡

所 在 地	延岡市伊形町2670番1	調査面積	18.0㎡
調査原因	携帯電話基地局建設	担 当 者	甲斐
調査期間	20120829～20120904	処　　置	慎重工事

（1）位置と環境

林遺跡は、延岡市域の南部を流れる沖田川と井替川、２つの河川に挟まれた狭小な沖積地に立地する。これまで、宮崎県によって２回の発掘調査が行われ、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。

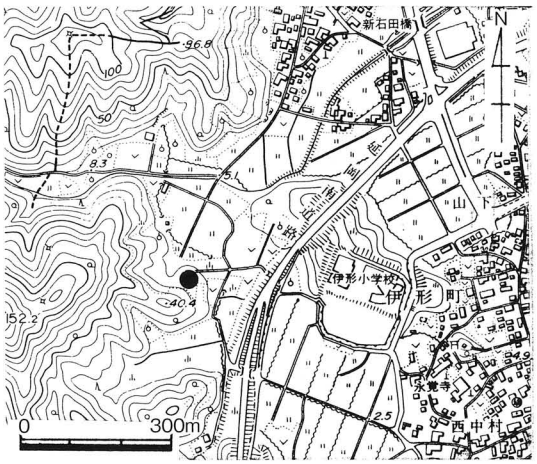


Fig.24　林遺跡位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

調査地は遺跡西側の山付部分に立地し、最近まで果樹園として利用されていた。標高は約14.0mである。調査地内にトレンチを２箇所設定し、人力で掘削を行った。

結果、両トレンチにおいて、表土下では細礫が多量に混じる赤褐色の粘質土層を確認した。この層は、平成９～12年度調査の際に丘陵部で確認されたＸⅡ層に相当し、ＡＴ層より下位の地層である。よって、当該地は後世に平坦面を造成する際の削平を受けており、遺物包含層は残存していないことが判明した。

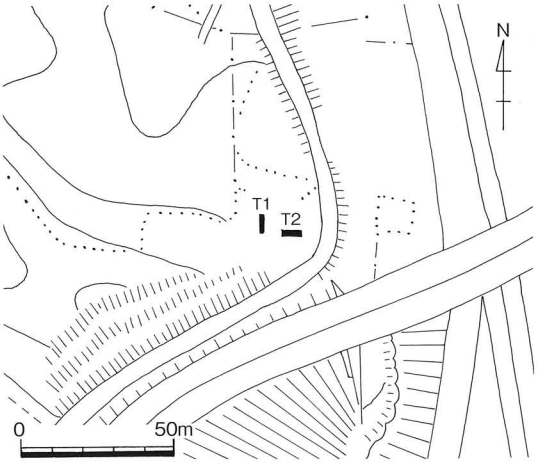


Fig.25　林遺跡調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

なし

（5）まとめ

今回の調査地は遺跡西端の山付地に位置するが、遺構・遺物は確認されなかった。しかし、過去の調査において周辺では墓石や板碑、五輪塔など中・近世の遺物が多量に出土していることから、今後も周辺の開発には注意する必要がある。

PL.28　林遺跡近景（東から）

9．宮野浦菅田遺跡

所 在 地	北浦町宮野浦字菅田708番1	調査面積	10.6㎡
調査原因	携帯電話無線基地局	担 当 者	尾方
調査期間	20120829～20120831	処　　置	工事実施

（1）位置と環境

当遺跡の所在する北浦町は延岡市の北東部に位置し、大分県佐伯市と境を接する。町の北には400～600m級の山々が連なり、古くから林業が盛んな地域である。南は海岸に面し、海岸触によるリアス式海岸が発達し、美観を呈するとともに、出入りの多い海岸線が天然の良港を生み出している。漁業も古くから盛んで、現在では県内有数の養殖漁場となっている。調査地点の所在する宮野浦地区は、北浦町の漁港の１つ宮野浦港を中心とした集落である。北浦湾の東に位置し、南に伸びる丘陵の西側に開けている。宮野浦菅田遺跡は、港に向かって広がる解析谷に位置し、集落の後背地で遺跡の多くは畑地となっている。

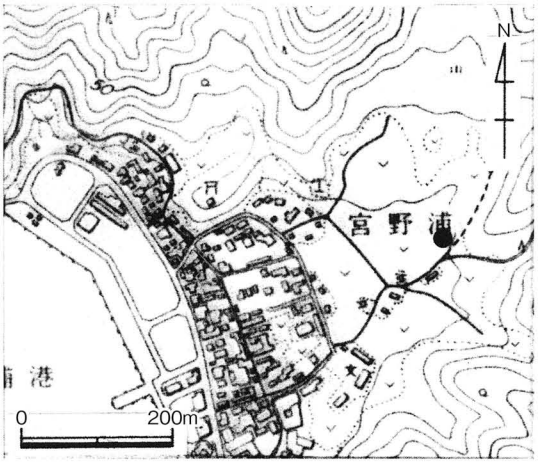


Fig.26　宮野浦菅田遺跡位置図（1/10,000）

（2）調査の概要

開発の計画により、掘削を伴う範囲に２箇所のトレンチを設定した。両トレンチ共に地表下約１ｍで湧水層に達する。湧水層下は荒砂層で、暗青灰色粘質土に円礫が多く混じる層である。円礫は約５～10cm大が主であるが、大きいものは30cmを超すものもあった。

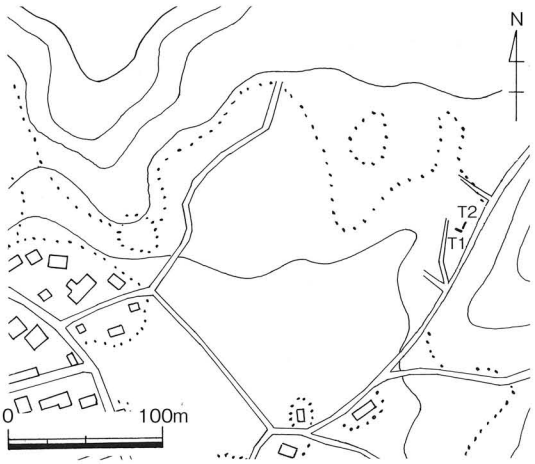


Fig.27　宮野浦菅田遺跡調査区配置図（1/5,000）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

なし

（5）まとめ

地形等から考慮し、谷底の地形と判断する。土壌等も無く、埋蔵文化財の所在する可能性は極めて低い。周辺では土錘等が表採されるなど、今後も周辺の開発には留意する必要がある。

PL.29　宮野浦菅田遺跡近景（南から）

10. 惣泉寺跡（第１次）

所 在 地　延岡市古城町2丁目7番6、7番9　　調査面積　20.0㎡
調査原因　個人住宅建設　　担 当 者　小野
調査期間　20120924～20120926　　処　　置　慎重工事

（1）位置と環境

延岡市の中南部に位置する古城町は、愛宕山（251.2m）北麓の平野部に位置し、北側には五ヶ瀬川が東流する。当該地西側には、町名の由来になっている中世土持氏の井上城跡があり、周辺には本市能楽の黎明期の舞台ともなった惣泉寺跡（田中薬師寺跡・中世）と呼ばれる伝承地が残る。

当地に個人住宅建設計画が予定され、遺跡の所在が予想されたため、確認調査を実施した。

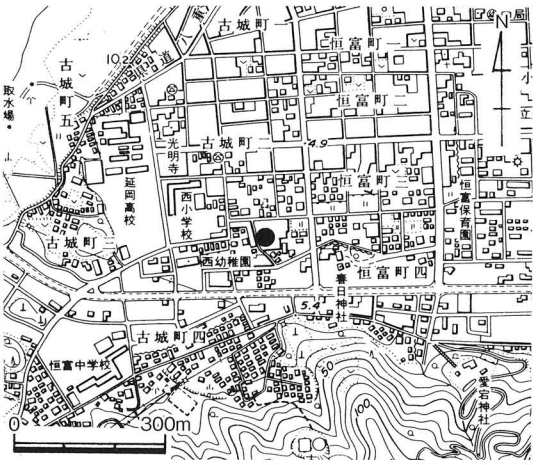


Fig.28　惣泉寺跡（第1次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

対象地にトレンチを３ヶ所設定して、調査を行った。現地表から約１ｍで砂や砂礫等の河川性の堆積層が検出された。遺構は検出されていない。

少量の陶磁器等が出土しているが、流れ込み等と判断される。

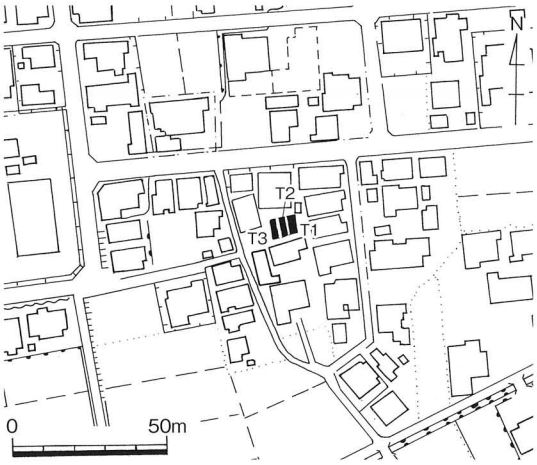


Fig.29　惣泉寺跡（第1次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

弥生土器、陶磁器

（5）まとめ

今回の調査では、遺構は検出できなかった。

しかし、弥生土器片の出土もあり、周辺地域には住宅地が広がっているが、削平を免れた遺構の存在も予想される。

今後とも、開発事業に対する調整等が必要である。

PL.30　惣泉寺跡（第１次）調査風景（南西から）

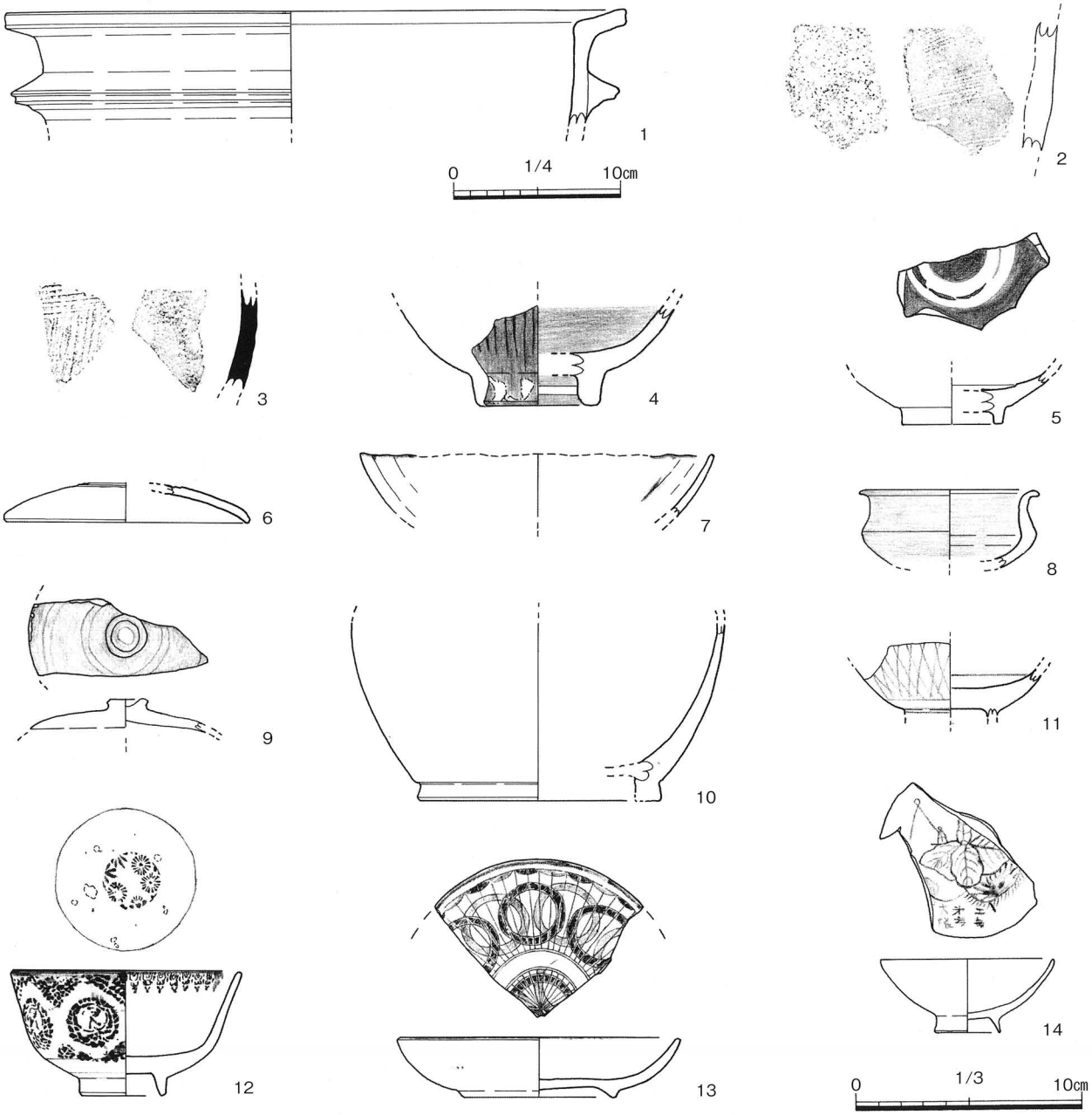
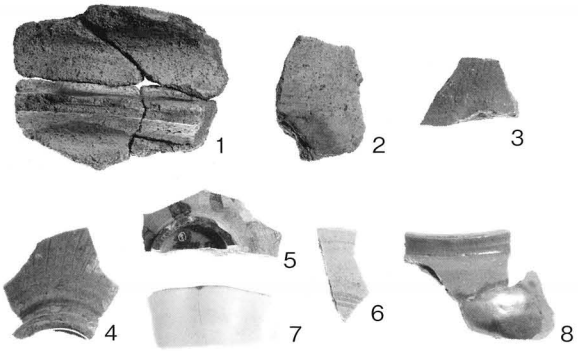
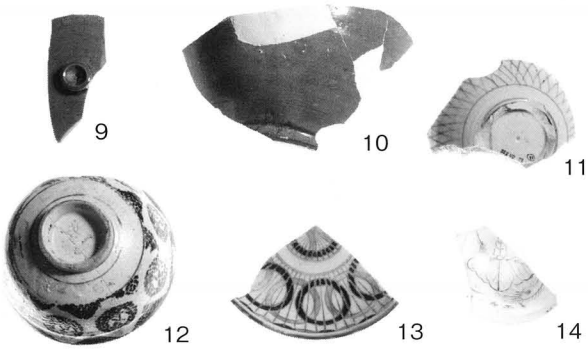


Fig.30　惣泉寺跡（第１次）出土遺物実測図（1/3･1/4）



PL.31　惣泉寺跡（第１次）出土遺物（1）



PL.32　惣泉寺跡（第１次）出土遺物（2）

11. 野田町八田遺跡（第６次）

所 在 地	延岡市野田町4821－16	調査面積	22.0㎡
調査原因	個人住宅建設	担 当 者	小野
調査期間	20120920～20120921	処　　置	慎重工事

（1）位置と環境

当遺跡は、市街地から西方に約3.8kmにあり、五ヶ瀬川が、大瀬川と分岐して１ km 程流れ下り、北に大きく蛇行する北東の低丘陵上に位置する。調査地の西側には国指定南方古墳群の一つである第38号墳が所在している。

調査地の北東側には、昭和52年（1977）に弥生時代終末期の竪穴住居跡が１軒検出された野田町八田遺跡がある。二重口縁壺や石包丁、石鏃、石錘、石斧等が出土している。

野田町八田遺跡の北側では、平成５年（1993）に民間の宅地造成に伴い八田遺跡第２地点の調査が行われ、土師器片や高坏の脚部等が出土している。

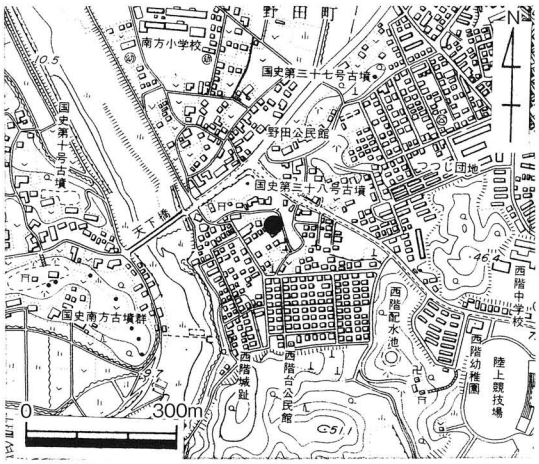


Fig.31　野田町八田遺跡（第6次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

調査は、住宅工事に影響を及ぼさない部分を中心に２ヶ所トレンチを設定して実施した。

調査地周辺は、住宅建設のための造成が行われているため、包含層の遺存状況の確認と遺構の検出を主眼において実施した。

現地表から約50～60cm で岩砕による客土層を、その下位に四万十層の地山を確認した。

遺構・遺物の検出はなかった。

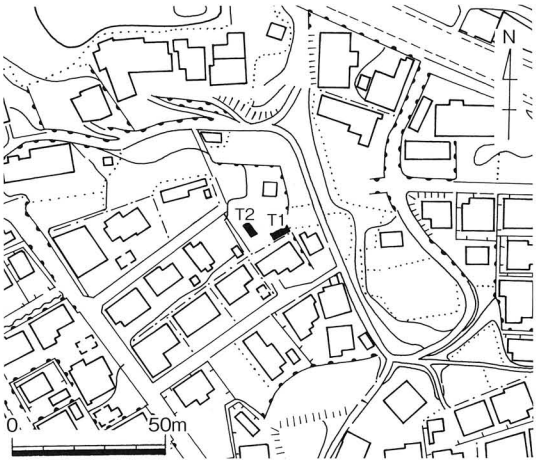


Fig.32　野田町八田遺跡（第6次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構・出土遺物

なし

（4）まとめ

今回の調査では、38号墳に関連する遺構やその他の新しい遺構は検出されなかったが、丘陵周辺には遺構・遺物の存在が予想されるため、今後の開発には十分注意しなければならない。

PL.33　野田町八田遺跡（第６次）近景（北東から）

12. 恒富本村遺跡（第１次）

所 在 地	延岡市恒富町１丁目7－9	調査面積	10.0㎡
調査原因	個人住宅建設	担 当 者	小野
調査期間	20120928～20121003	処　　置	工事実施

（1）位置と環境

延岡市の中南部、大瀬川とその南に位置する愛宕山との間に開けた沖積平野の中に位置する。ここは水田が広がっていたが、現在は宅地化が進みその様子は大きく変貌している。昭和14年（1939）に区画整理事業が行われた際、弥生土器が出土したため石川恒太郎氏により発掘調査及び分布調査が行われた。この結果、地域全体が遺跡であることが確認されている。発掘調査により打製石斧、石包丁、弥生土器の壺・甕・高坏・土器片数百点が出土しており、弥生土器については瀬戸内系のものが含まれている。

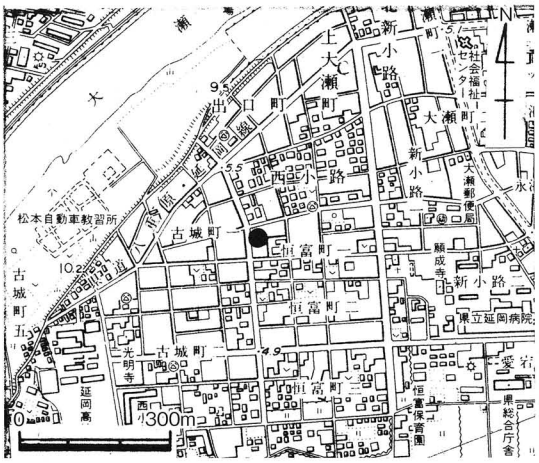


Fig.33　恒富本村遺跡（第1次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

排水路等のやや深堀される部分を考慮して２ヶ所のトレンチを設定し調査を行った。

現地表から、約1.3mで砂や砂礫等の河川性堆積物が検出された。遺構は検出されていない。縄文土器、弥生土器、須恵器、土錘、陶磁器等が混在して出土しているが、流れ込みと判断される。

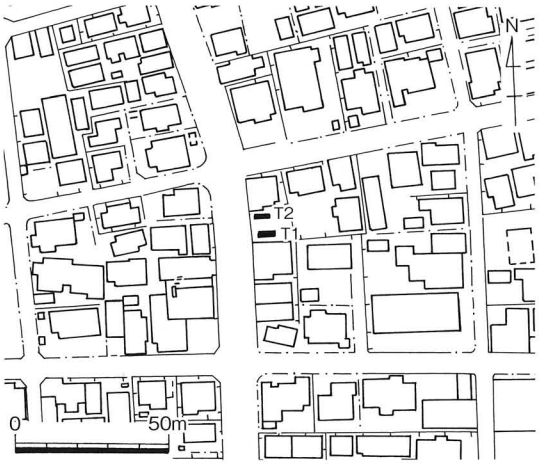


Fig.34　恒富本村遺跡（第1次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

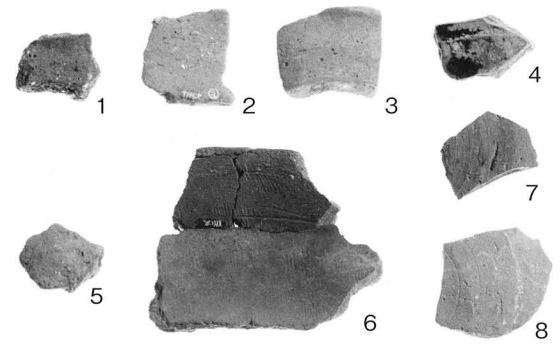
縄文土器、弥生土器、須恵器、陶磁器等

（5）まとめ

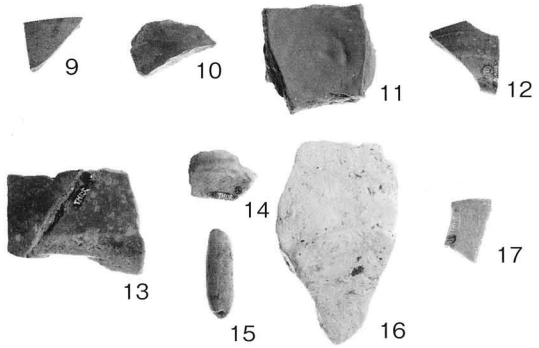
今回の調査では、遺構は検出されなかったが、周辺には遺構・遺物の存在が予想されるため、今後の開発には十分注意しなければならない。

PL.34　恒富本村遺跡（第１次）近景（東から）

Fig.35　恒富本村遺跡（第１次）出土遺物実測図（1/3）



PL.35　恒富本村遺跡（第１次）出土遺物（1）



PL.36　恒富本村遺跡（第１次）出土遺物（2）

13. 吉野遺跡（第９次）

所 在 地	延岡市吉野町1584－1	調査面積	29.0㎡
調査原因	携帯電話基地局建設	担 当 者	甲斐
調査期間	20121002～20121012	処　　置	工事立会

（１）位置と環境

吉野遺跡は五ヶ瀬川と大瀬川の分岐点の北岸にある丘陵上に立地する。今回の調査地は吉野地区から天下地区へと通じる峠道のピーク、標高約48mの地点に位置する。木々が繁茂していなければ南に五ヶ瀬川を望める絶好の場所である。付近には国指定史跡の南方14・15・17号墳があり、五ヶ瀬川を見下ろすように築造されている。

吉野遺跡は過去に延岡市が８次に渡って調査を行っており、７次調査ではＡＴ火山灰層の下からナイフ形石器や石核が出土した。

また、平成12～15年度にかけて県が調査した吉野第２遺跡でもＢ地区で二次加工剥片や石核がＡＴ下位で確認されている。

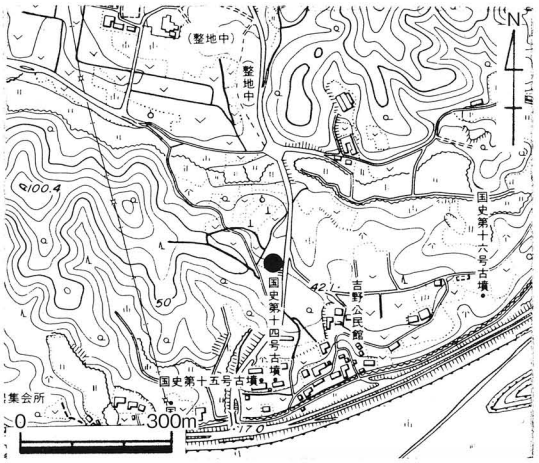


Fig.36　吉野遺跡（第9次）位置図（1/15,000）

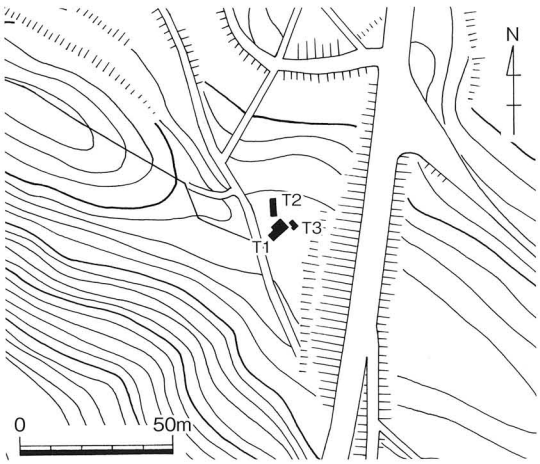


Fig.37　吉野遺跡（第9次）調査区配置図（1/2,500）

PL.37　吉野遺跡（第9次）調査地遠景（向かいの丘陵頂点）

（２）調査の概要

調査地は高さ15～20mのシイ・タブ・スギ等からなる雑木林であり、樹痕による撹乱が予想された。そのため、木立の合間の３箇所にトレンチ（Ｔ１～３）を設定し、確認調査を実施した。

層序　基本層序は堆積状況の良い台地や尾根部に見られるＡＴ・アカホヤといった火山灰とロームからなる地層である。Ｔ３では表土下にアカホヤ層が残存していたが、Ｔ１にはアカホヤが残存しておらず、表土直下は黒色土層（クロボク）であった。Ｔ２は尾根の斜面部に設けた。表土を剥ぐとアカホヤ・黒色土・褐色ローム等が入り乱れており、風倒木痕が広がっていた。ここでは剥片が数点出土したのみである。

Ｔ１　４層から剥片等が出土し始め、４層最下層で集石遺構（ＳＩ１～３）を検出した。明確な掘り込みを持たない小型の集石遺構で、割

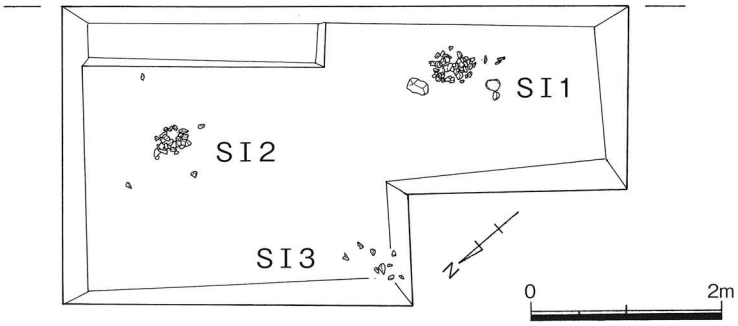


Fig.38　吉野遺跡（第９次）Ｔ１集石出土平面図（1/80）

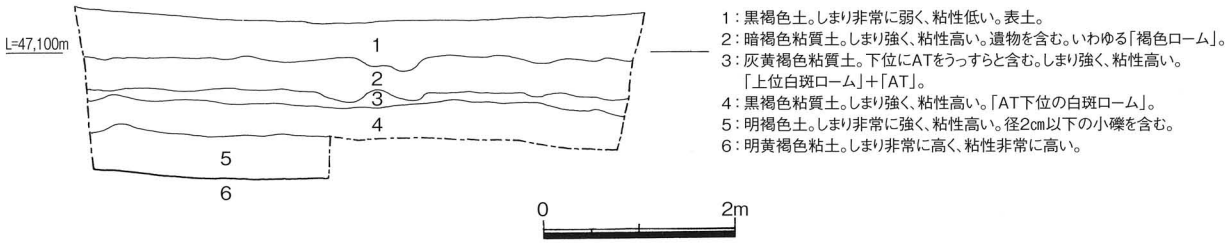
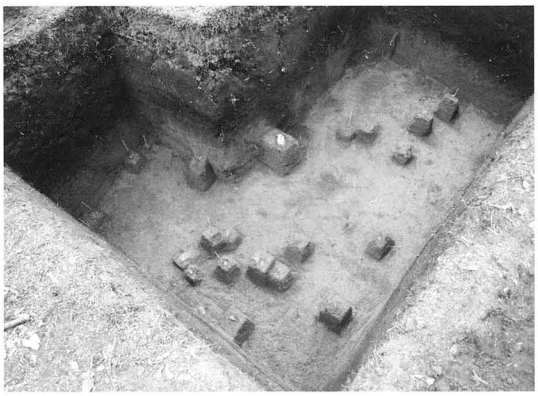


Fig.39　吉野遺跡（第９次）Ｔ１南壁土層断面図（1/80）

PL.38　吉野遺跡（第９次）Ｔ１集石検出

PL.39　吉野遺跡（第９次）Ｔ１南壁土層



PL.40　吉野遺跡(第9次)T3褐色ローム層遺物出土状況

PL.41　吉野遺跡(第9次)T1AT下白斑ローム層遺物出土状況

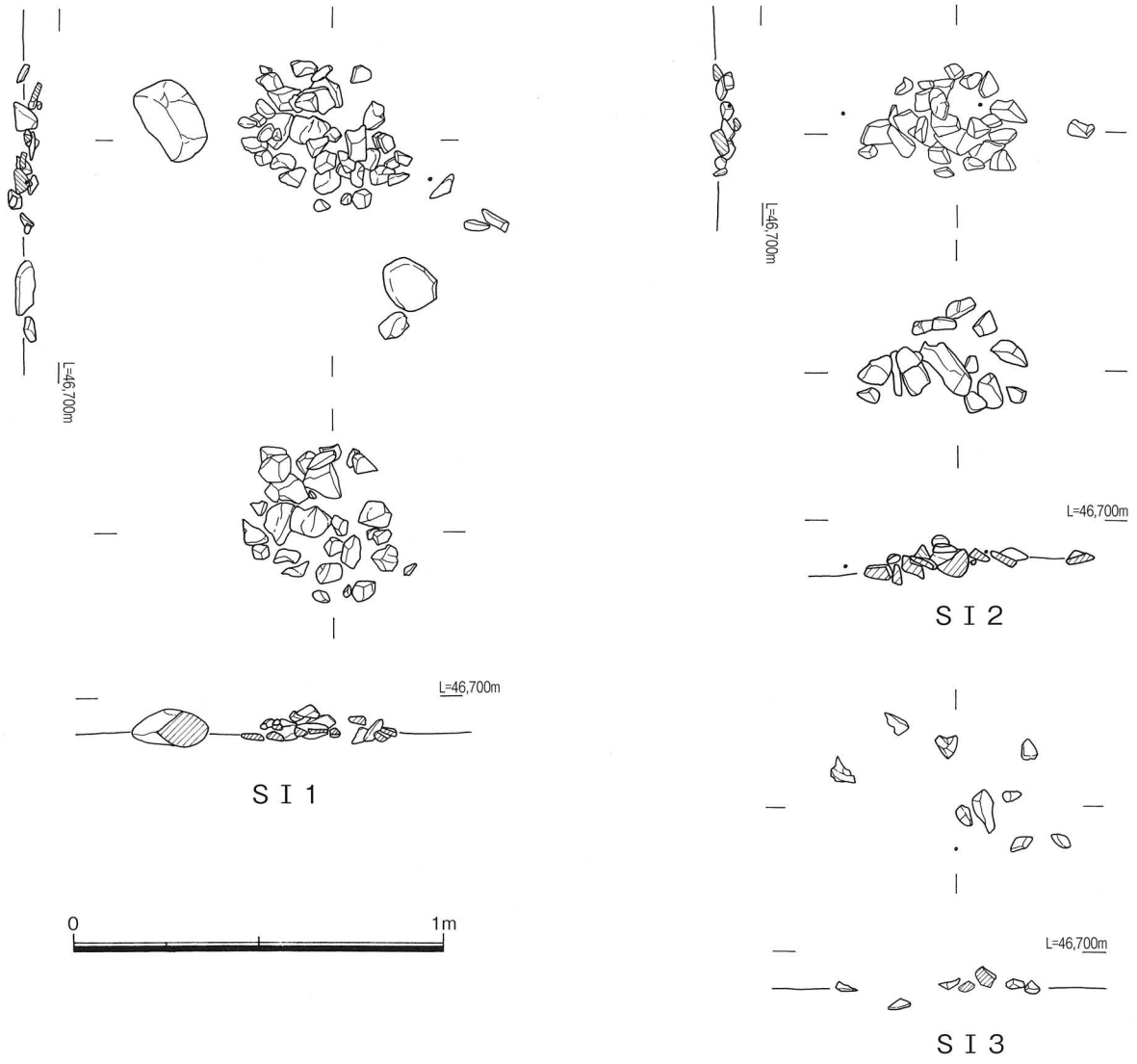
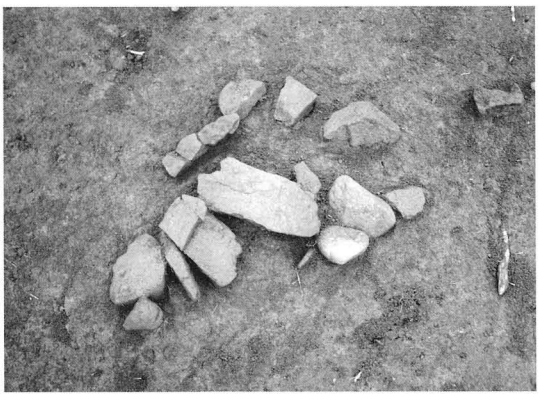


Fig.40　吉野遺跡（第９次）集石遺構実測図（1/20）

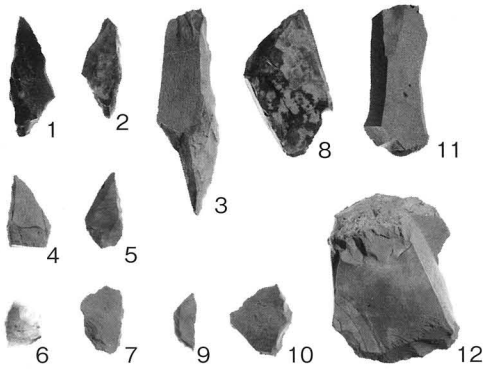
PL.42　吉野遺跡（第９次）SI１底石



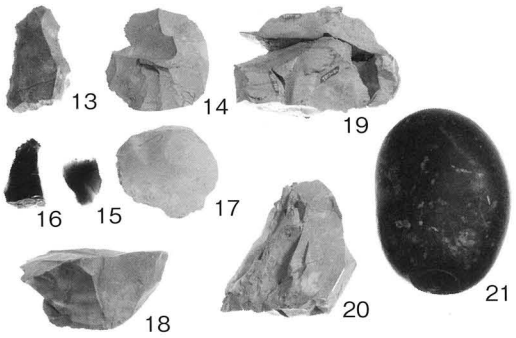
PL.43　吉野遺跡（第９次）SI２底石

Fig.41　吉野遺跡（第９次）出土遺物実測図①（2/3）

Fig.42　吉野遺跡（第９次）出土遺物実測図②（2/3）



PL.44　吉野遺跡（第９次）出土石器（1）



PL.45　吉野遺跡（第９次）出土石器（2）

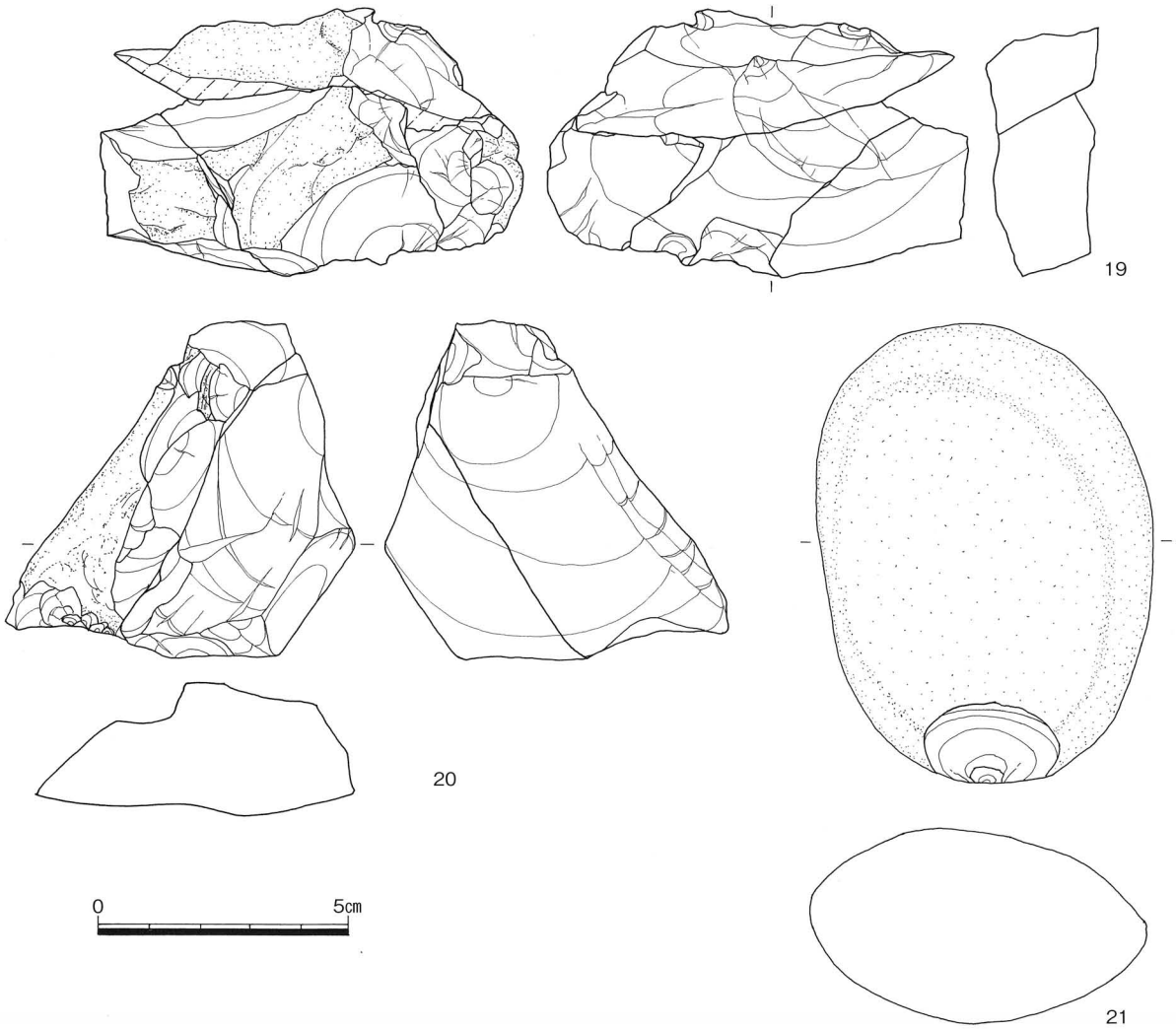


Fig.43　吉野遺跡（第９次）出土遺物実測図③（2/3）

り石を用いて作られている。石器はナイフ形石器、スクレイパー、コアなどが出土した。石材は流紋岩が主体であり、黒曜石やチャートはごく少量である。

ＡＴは５層の中位にうっすらと堆積しているのみで、明瞭な層を形成しない。そのＡＴ下位からも剥片が出土した。

（３）検出遺構

集石遺構３基

（４）出土遺物

ナイフ形石器・スクレイパー・コア・剥片等

（５）まとめ

今回の調査地は風倒木等の撹乱が広範に認められたが、付近には旧石器時代の遺構や遺物が良好に残存していると思われる。今後も開発には注意を要する。

14. 大武遺跡（第２次）

所 在 地　延岡市牧町4692－1
調査原因　その他の建物（集合住宅建設）
調査期間　20121029～20121101
調査面積　42.0㎡
担 当 者　甲斐
処　　置　慎重工事

（1）位置と環境

遺跡は、北川と祝子川、大瀬川が河口付近で合流することで形成された州の鼻に位置する。その地形から、牧町や隣接する大武町一帯は、大武寺を中心に近世には港町として栄えた。入り組んだ町割や残された石垣が往時を偲ばせる。牧町の海側は「前町」、陸側は「後町」と呼ばれていたようで、過去に周辺で行われた試掘調査（大武町志多留地点）では、幕末～明治期の陶磁器、古銭が出土した。

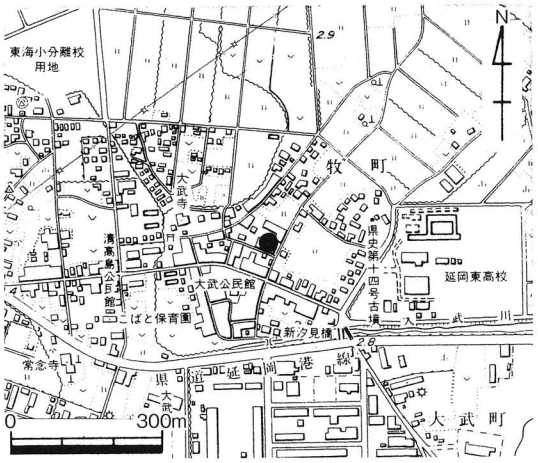


Fig.44　大武遺跡（第2次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

本遺跡は大武遺跡に近いことから、調査時は牧町第１地点と銘して試掘調査に入った。

調査の結果、地表から120～150cmの深さまでは過去の造成土であり、その下で水田の床土とみられる砂質シルトの層を確認した。その層の上位で近世陶磁器の細片とともに小型五銭白銅貨が出土した。遺構は検出されず、これらの遺物は近代以降の流れ込みによるものと判断した。

Fig.45　大武遺跡（第2次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

近世陶磁器片、小型五銭白銅貨（大正９～昭和７年鋳造）

（5）まとめ

細片化した陶磁器片が流れ込んでいることから、付近が遺跡であることは確実である。よって、調査後に今回の調査地点を大武遺跡の東端とする遺跡範囲拡大を行い、今回の調査を大武遺跡第２次調査と改めた。

PL.46　大武遺跡第２次近景（北東から）

15. 東原遺跡（第９次）

所 在 地	北方町川水流卯967－16	調査面積	12.0㎡
調査原因	個人住宅建設	担 当 者	小野
調査期間	20121106～20121108	処　　置	慎重工事

（１）位置と環境

当遺跡は五ヶ瀬川に向かって、南へ緩やかに傾斜する台地上に位置する。五ヶ瀬川との比高差は約50mを測る。

北方中学校の南側にあたり、古くから埋蔵文化財の包蔵地として知られている。

当地に個人住宅が予定され、遺跡の所在が予想されたため、確認調査を実施した。

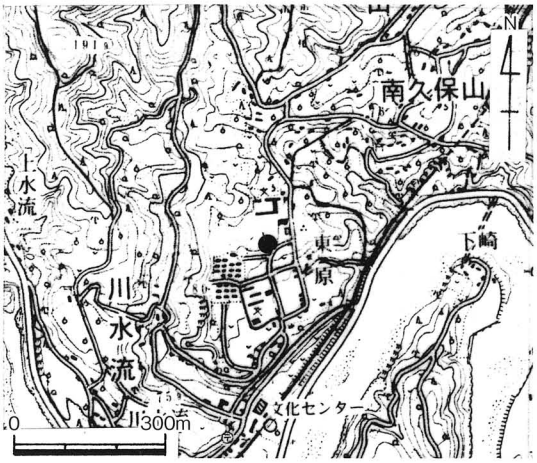


Fig.46　東原遺跡（第9次）位置図（1/15,000）

（２）調査の概要

対象地に６箇所のトレンチを設定した。大部分のトレンチで表土層下にＡＴ火山灰層を確認した。

調査の結果、遺構は検出されなかったが、中央のトレンチで弥生時代後期の甕の胴部片が撹乱層中より出土した。旧石器時代の遺物は出土していない。

Fig.47　東原遺跡（第9次）調査区配置図（1/2,500）

（３）検出遺構

なし

（４）出土遺物

弥生時代後期甕片

（５）まとめ

今回の調査では、ＡＴ火山灰層上部までの削平が確認されたこともあり、遺構・遺物はほとんど見受けられなかった。

しかし、周辺では弥生時代の竪穴住居跡の検出例もあり、出土遺物からその存在が予想される。

今後とも周辺地域の開発事業には留意する必要がある。

PL.47　東原遺跡（第９次）近景（北から）

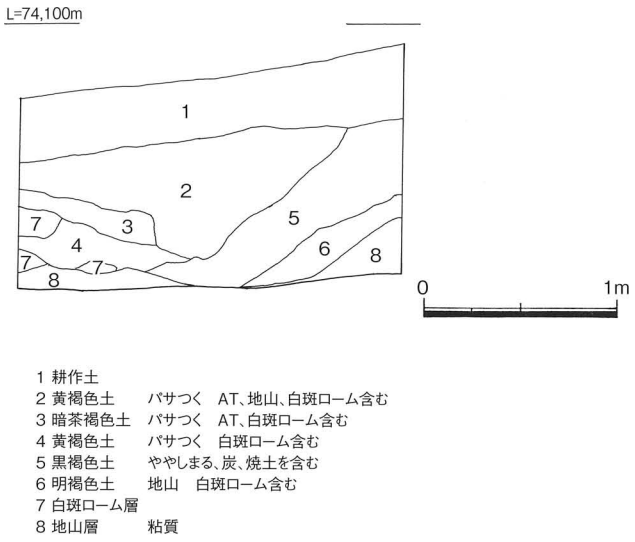


Fig.48　東原遺跡（第９次）土層断面図（1/40）

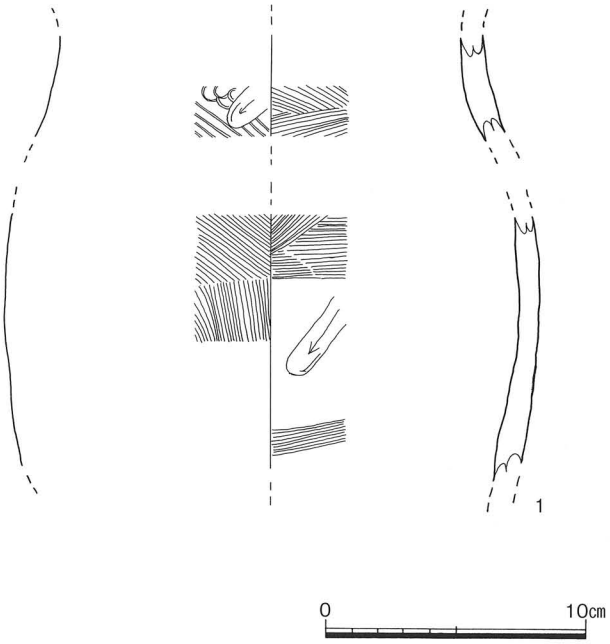


Fig.49　東原遺跡（第９次）出土遺物実測図（1/3）

PL.48　東原遺跡（第９次）近景（南から）

PL.49　東原遺跡（第９次）調査風景（北から）

PL.50　東原遺跡（第9次）土層断面（トレンチ5・北東から）

PL.51　東原遺跡（第９次）出土遺物

16. 延岡城内遺跡（第24次）

所 在 地　延岡市本小路246番2・246番4　　調査面積　22.0㎡
調査原因　その他の開発（土地売買）　　担 当 者　小野
調査期間　20121112～20121116　　処　　置　慎重工事

（1）位置と環境

延岡城は延岡市の中心部に位置する・延岡市の中心部は五ヶ瀬川、大瀬川の中州にあり、延岡城はこの２つの川を外堀とし、標高約53.4mの独立丘陵を本城とし、西に約450mに位置する標高約23.8mを西の丸とする二郭構成の近世城郭である。当時の藩主高橋元種により1600年から３年かけて築かれた。

藩主は高橋氏以降、有馬氏、三浦氏、牧野氏、内藤氏と替わる。三浦氏以降は、日本で最も南に位置する譜代藩となる。

調査地は、現存する絵図等では内堀の南側の空白地帯になる。調査地の東側を平成19年（2007）に延岡城内遺跡第16次として調査を行い、客土中から近世～近代の陶磁器類と紅渓石片、第10層から木桶等の木製品などが出土している。

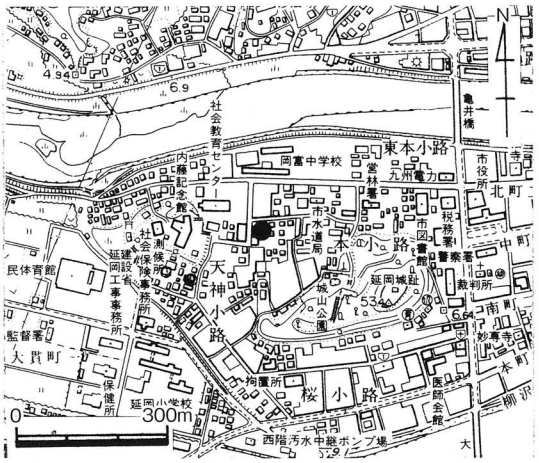


Fig.50　延岡城内遺跡（第24次）位置図（1/15,000）

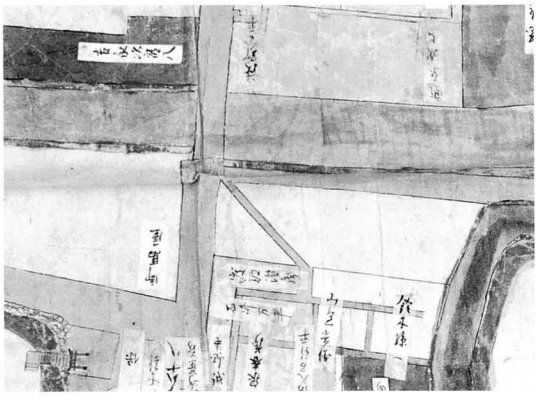
（2）調査の概要

トレンチを４ヶ所設定し、調査を行った。現地表から約１mで段状遺構が検出された。段状の端部は南側に向かって急な落ち込みがみられる。段状遺構の南側は現地表から約２mで青灰色粘質土となり、湧水がみられる。青灰色粘質土は厚く堆積している。段状遺構の段差を埋めた埋土中より須恵器、陶磁器、瓦等が出土している。段状遺構には柱穴等は見られない。段状遺構及び青灰色粘質土中からの遺物の出土はない。客土中には陶磁器類の他紅渓石片も見られる。

Fig.51　延岡城内遺跡（第24次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

段状遺構


PL.52　明治前後延岡藩士族屋敷図（明治大学蔵）

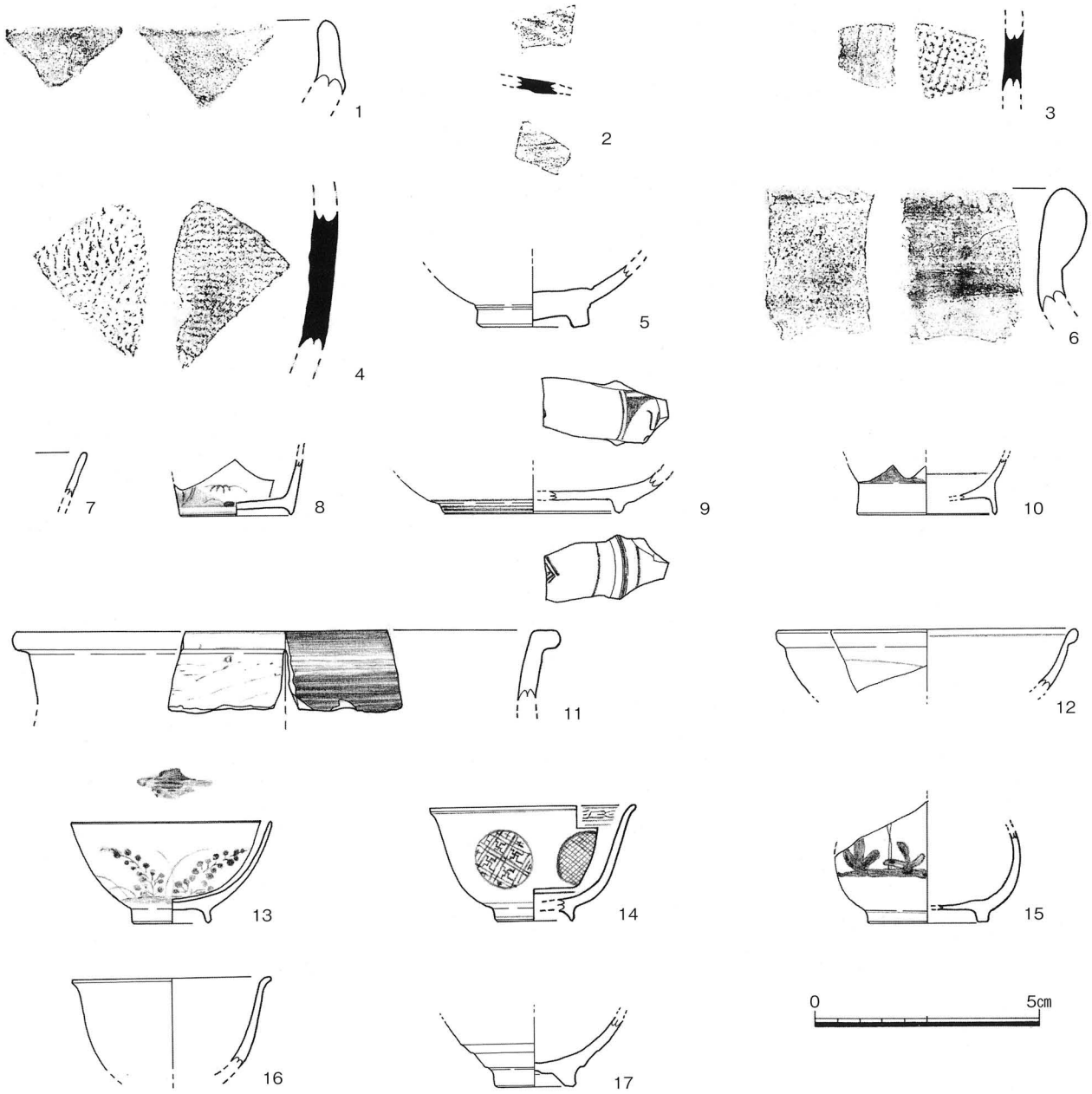


Fig.53　延岡城内遺跡（第24次）出土遺物実測図（1/3）

（4）出土遺物

須恵器、陶磁器

（5）まとめ

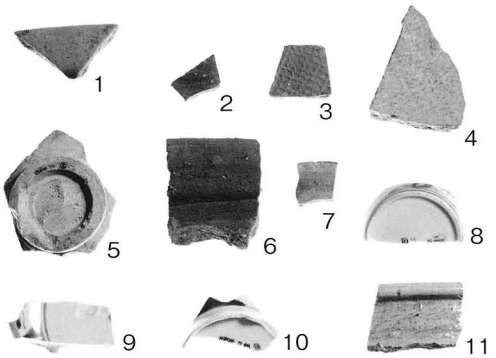
今回の確認調査では、約１m下位まで近現代の攪乱が確認され、その下位には絵図資料には描かれていない段状遺構を検出した。段状遺構内からの出土遺物がなく、その性格等を把握する判断材料は得られなかった。この段状遺構の両端及び南側の状況は調査地の制限により確認できていない。青灰色粘質土はどこまで続いているのか、その立地や構造について今後とも引き続き周辺地域の開発に留意し、調査例の増加に期待したい。

PL.53　延岡城内遺跡（第24次）近景（西から）

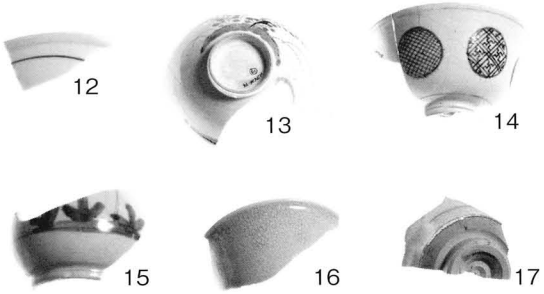
PL.54　延岡城内遺跡（第24次）調査風景（西から）

PL.55　延岡城内遺跡（第24次）段状遺構検出状況（南西から）

PL.56　延岡城内遺跡（第24次）土層断面（トレンチ2・南西から）



PL.57　延岡城内遺跡（第24次）出土遺物（1）



PL.58　延岡城内遺跡（第24次）出土遺物（2）

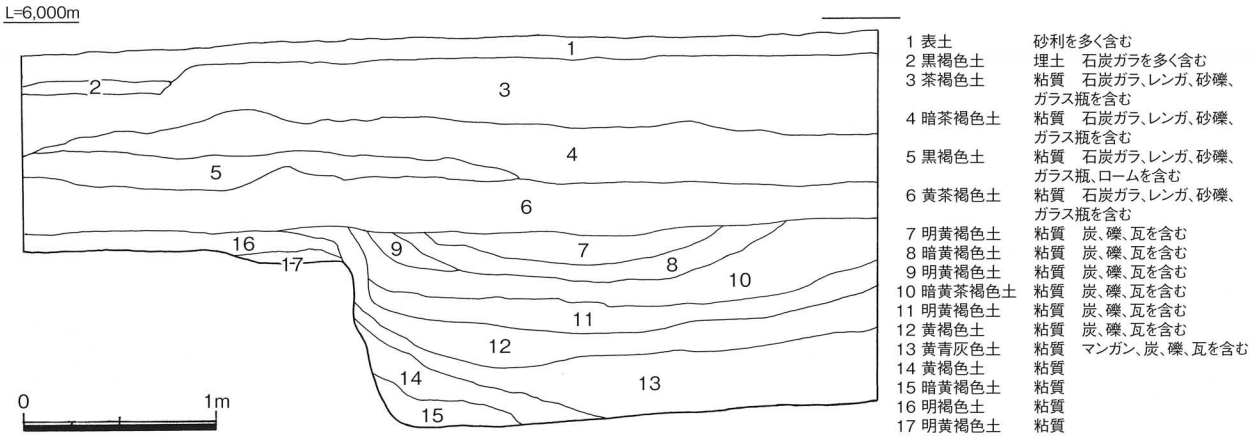


Fig.52　延岡城内遺跡（第24次）土層断面図（1/40）

17. 延岡城内遺跡（第25次）

所 在 地	延岡市天神小路212番2	調査面積	15.0㎡
調査原因	その他の開発（土地売買）	担 当 者	小野
調査期間	20121119～20121120	処　　置	慎重工事

（1）位置と環境

延岡城は延岡市の中心部に位置する。延岡市の中心部は五ヶ瀬川、大瀬川の中州にあり、延岡城はこの２つの川を外堀とし、標高約53.4mの独立丘陵を本城とし、西へ約450mに位置する標高約23.8mを西の丸とする二郭構成の近世城郭である。当時の藩主高橋元種により1600年から３年かけて築かれた。

藩主は高橋氏以降、有馬氏、三浦氏、牧野氏、内藤氏と替わる。三浦氏以降は、日本で最も南に位置する譜代藩となる。

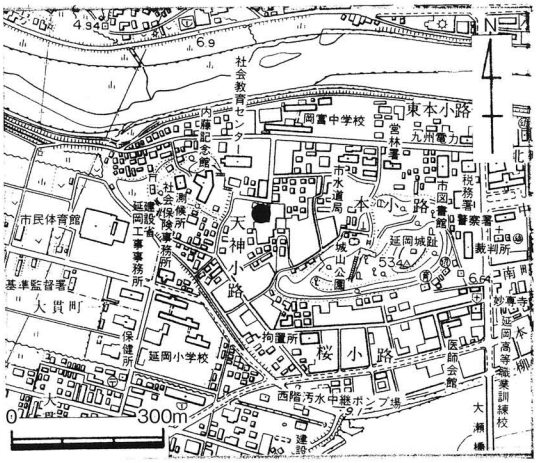


Fig.54　延岡城内遺跡（第25次）位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

トレンチを３ヶ所設定し、調査を行った。現地表から約１ｍまで後世の埋土で、その下位に近世の包含層を確認した。遺構は検出されていない。埋土中より須恵器、陶磁器、瓦等が出土している。

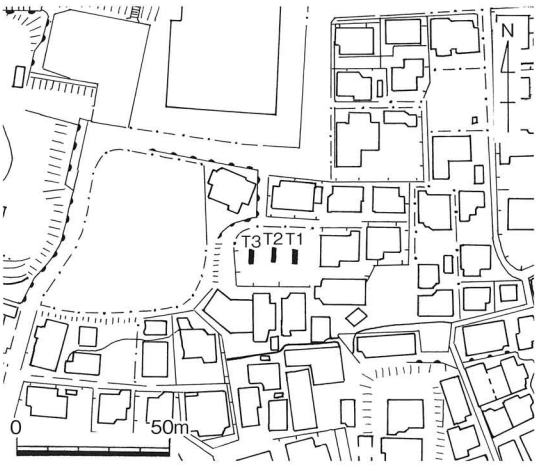


Fig.55　延岡城内遺跡（第25次）調査区配置図（1/2,500）

（3）検出遺構

なし。

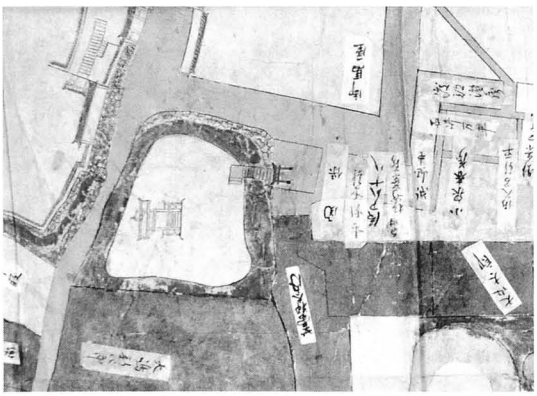
（4）出土遺物

須恵器、陶磁器

（5）まとめ

今回の確認調査では、約１ｍ下位まで近現代の攪乱が確認された。調査地周辺は、絵図資料には士族屋敷が描かれており、削平を免れた遺構の存在も否定できない。

今後とも引き続き周辺地域の開発に留意しなければならない。



PL.59　明治前後延岡藩士族屋敷図（明治大学蔵）

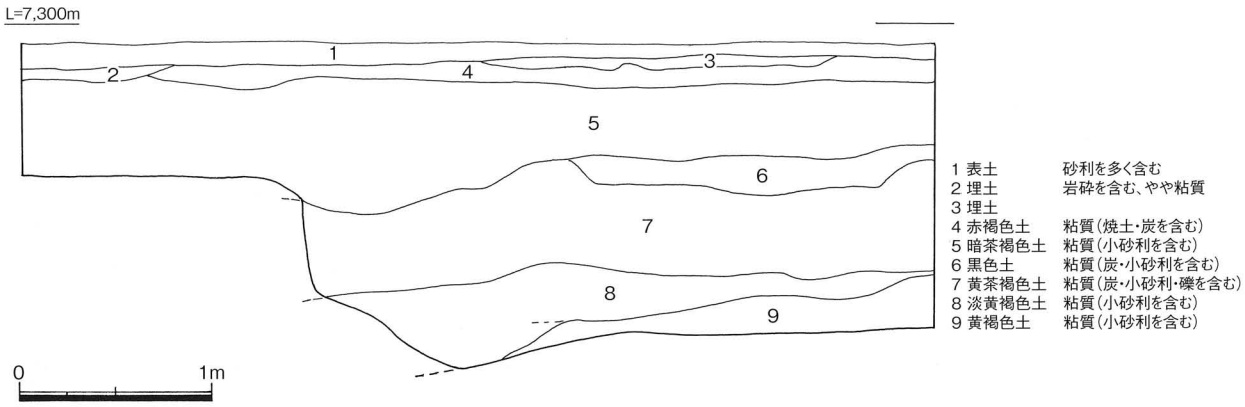


Fig.56　延岡城内遺跡（第25次）土層断面図（1/40）

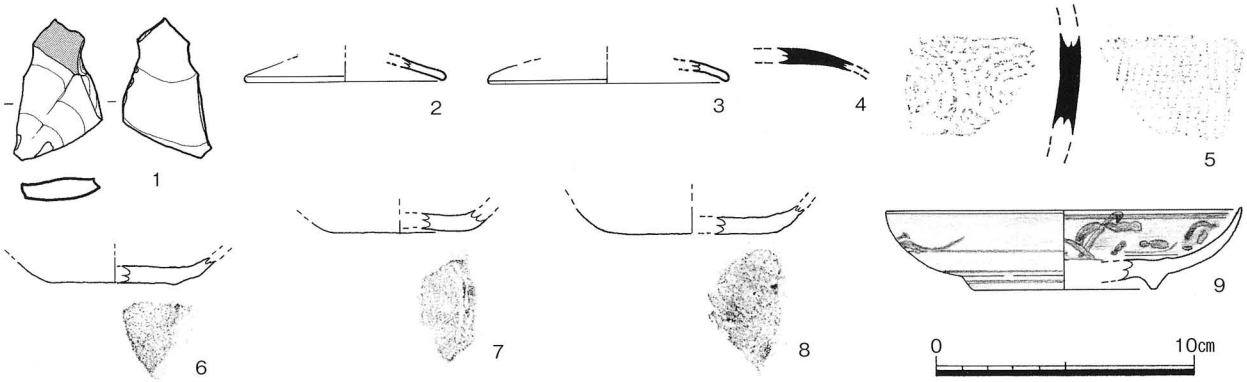
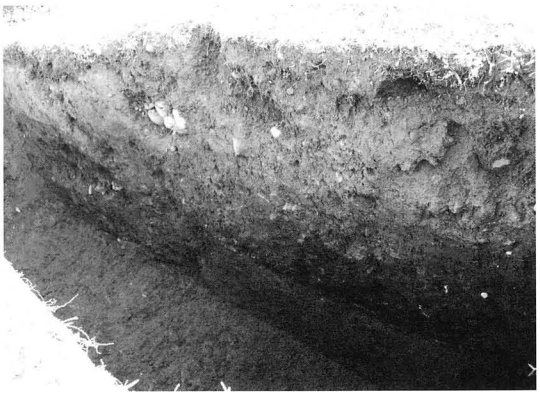


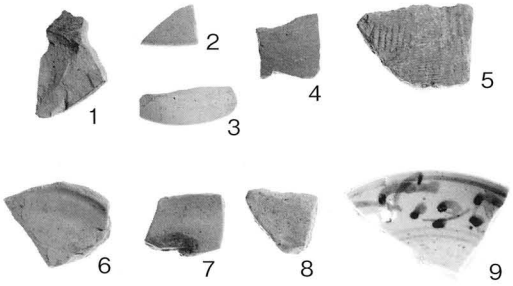
Fig.57　延岡城内遺跡（第25次）出土遺物実測図（1/3）

PL.60　延岡城内遺跡（第25次）近景（西から）

PL.61　延岡城内遺跡(第25次)調査風景(南西から)



PL.62　延岡城内遺跡(第25次)土層断面(トレンチ3・東から)



PL.63　延岡城内遺跡（第25次）出土遺物

18. 馬場畑遺跡

所 在 地	延岡市稲葉崎町1793－2外	調査面積	17.6㎡
調査原因	個人住宅建設	担 当 者	甲斐
調査期間	20121119～20121121	処　　置	慎重工事

（1）位置と環境

本市の北部を流れる祝子川と北川に挟まれた沖積地には樫山丘陵があり、そこから北へ緩やかに伸びた低丘陵上の先端部に、県北最大の前方後円墳である菅原神社古墳（県指定史跡延岡市古墳第22号）が立地する。古墳は墳丘周囲を大きく削平されて宅地化しており、現況の墳丘部以外の周辺域が「馬場畑遺跡」である。

本遺跡では鏡が出土したとの記録があるが、詳細は不明である。周辺を含めて過去に調査例のない古墳であり、今回が初めての発掘調査となった。

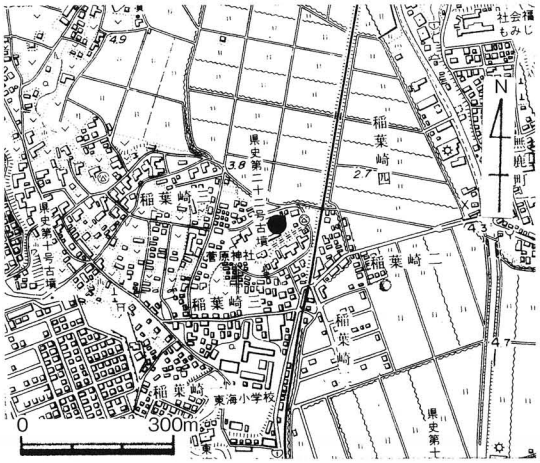


Fig.58　馬場畑遺跡位置図（1/15,000）

（2）調査の概要

調査地は標高約8.5mで、全長110m超の菅原神社古墳の前方部北側に位置する。戦時中、墳丘斜面には多くの防空壕が掘られ、戦後に防空壕の天井が崩落し、開墾されて畑や宅地化したという。現在ではほぼ全周囲が宅地や道路となっている。前方部の崖面には土層が観察出来る箇所があり、本古墳は四万十の風化土層に盛土して築造されている事がわかる。

調査地は、古墳の墳端や周溝が残存している可能性があるため、４箇所にトレンチを設定し、人力･重機での掘削を行った。結果、Ｔ１･Ｔ４において菅原神社古墳の墳端が確認でき、浅い周溝を検出した。

Ｔ１　表土･畑土（１～７層）を除去すると、周溝埋土（８層）と古墳築造時の旧表土と考えられる層（10層）が検出された。本来の周溝上部は削平されており、幅2.5m、深さ約40cmを測る。墳丘の規模を考えると浅めに感じられるが、本古墳が丘陵部を利用して築かれた古墳であることを考慮すれば不自然ではない。

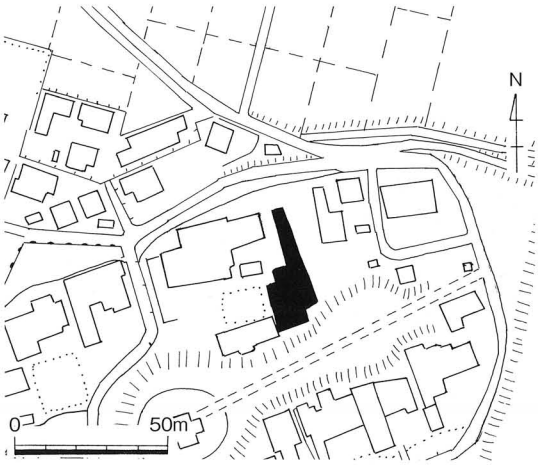


Fig.59　馬場畑遺跡調査区配置図（1/2,500）

PL.64　馬場畑遺跡調査区近景（墳丘上から）

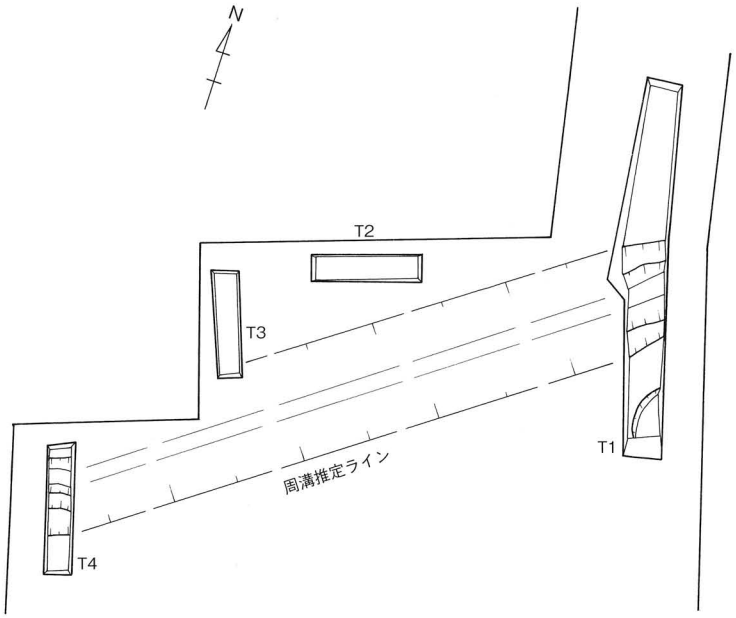
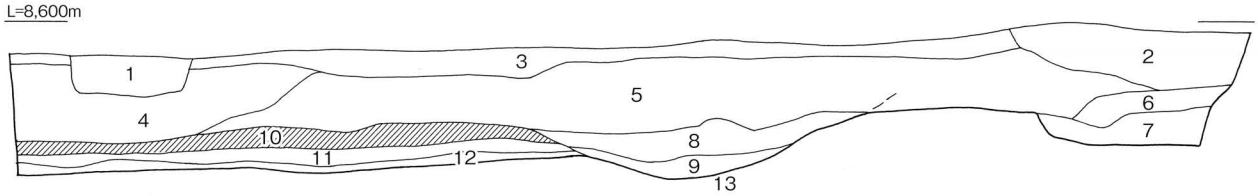
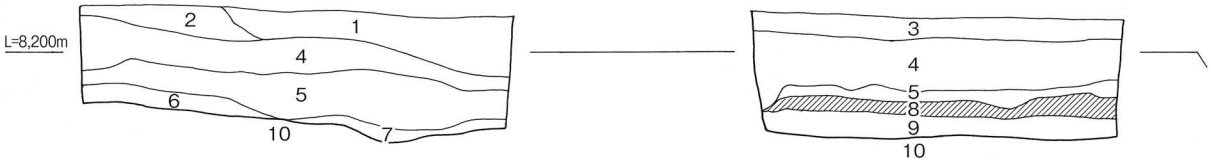


Fig.60　馬場畑遺跡トレンチ配置図（1/200）



1：暗褐色土。攪乱層。
2：暗褐色土。しまり非常に弱く、粘性あり。水道管敷設時の攪乱。
3：黒褐色土。しまり弱く、粘性あり。表土。
4：暗褐色土。しまり非常に弱く、粘性あり。径3cm以下の黄褐色ブロック（以下B）、黒色B、炭化材を多く含む。畑土。
5：暗褐色土。径1cm以下の黄褐色B、黒色B、炭化材を少量含む。現代の陶磁器片を微量含む。畑土。
6：暗灰褐色土。しまり弱く、粘性あり。マンガンが沈着する。畑土。
7：暗褐色土。しまり弱く、粘性あり。径3cm以下の黄褐色B、黒色B、炭化材を多く含む。畑土。
8：暗褐色土。しまり弱く、粘性あり。径2cm以下の黄褐色Bを含む。周溝埋土。
9：暗褐色土。しまり弱く、粘性あり。径10cm以下の黄褐色Bを多く含む。周溝の初期埋土。
10：黒褐色土。しまり強く、粘性高い。径5cm以下の黄褐色Bを含む。旧表土。
11：暗褐色土。しまり強く、粘性非常に高い。
12：褐色土。しまり強く、粘性非常に高い。
13：黄褐色土。しまり非常に強く、粘性高い。地山。

Fig.61　馬場畑遺跡Ｔ１東壁土層断面図（1/60）



1：岩砕主体の造成土。
2：暗褐色土。攪乱層。
3：黒褐色土。しまり弱く、粘性あり。表土。
4：暗褐色土。しまり非常に弱く、粘性あり。マンガンが沈着する。畑土。
5：暗褐色土。しまり弱く、粘性あり。径1cm以下の黄褐色Bを多く含む。畑土。
6：暗褐色土。しまり強く、粘性あり。径10cm以下の黄褐色B、黒色Bを多く含む。マンガンがわずかに沈着。
7：暗褐色土。しまり弱く、粘性あり。径10cm以下の黄褐色Bを含む。周溝の初期埋土。
8：黒色土。しまり強く、粘性非常に高い。旧表土。
9：黒褐色土。しまり強く、粘性高い。
10：黄褐色土。しまり非常に強く、粘性高い。地山。

Fig.62　馬場畑遺跡Ｔ３・Ｔ４西壁土層断面図（1/60）

Ｔ２　Ｔ１でみられた旧表土がトレンチ全体で確認され、周溝より外側であることがわかった。

Ｔ３・Ｔ４　Ｔ３の南端で旧表土の切れ目が確認でき、Ｔ４では墳端が検出された。Ｔ１と同じく、開墾された際に上部を大きく削平されているため、深さは20cmほどしか残存していなかった。

（３）検出遺構

菅原神社古墳（延岡市古墳第22号）前方部北側の墳端および周溝

（４）出土遺物

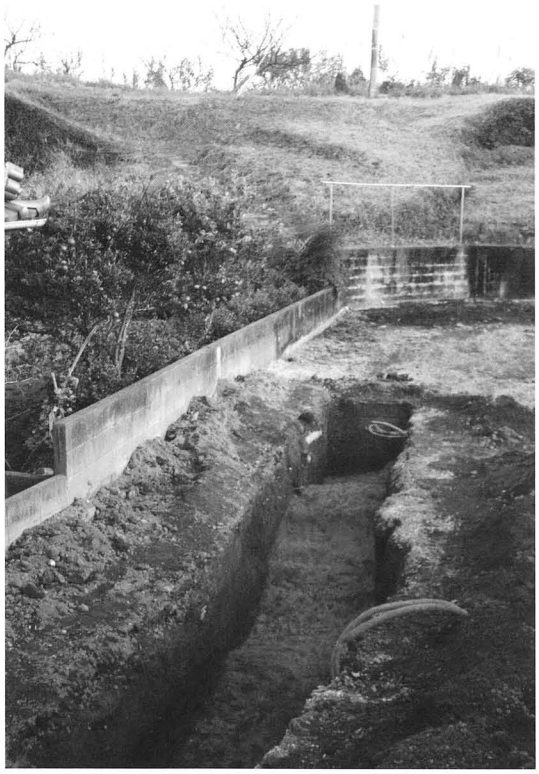
なし

（５）まとめ

今回の調査では、これまで未確認だった菅原神社古墳の墳丘端部が一部ではあるが確認でき、前方部北側には浅い周溝も巡っていたことが明らかとなった。本古墳は詳細な地形測量図等がないことから、今後はまず測量調査を実施し、現存する墳丘部と今回検出された周溝との位置関係を確認する必要がある。先述したとおり、墳丘の全周囲が削平を受けているため、こうした確認調査の結果を蓄積して墳丘規模の解明に努めたい。

また、本古墳は現在、後円部のみが円墳として指定を受けているため、指定のあり方についても検討していく必要がある。

PL.65　馬場畑遺跡Ｔ１周溝検出（1）

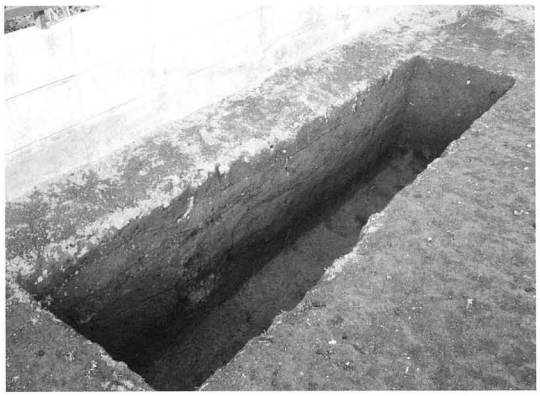


PL.66　馬場畑遺跡Ｔ１周溝と墳丘

PL.67　馬場畑遺跡Ｔ１周溝検出（2）

PL.68　馬場畑遺跡Ｔ１周溝土層（1）

PL.69　馬場畑遺跡Ｔ１周溝土層（2）

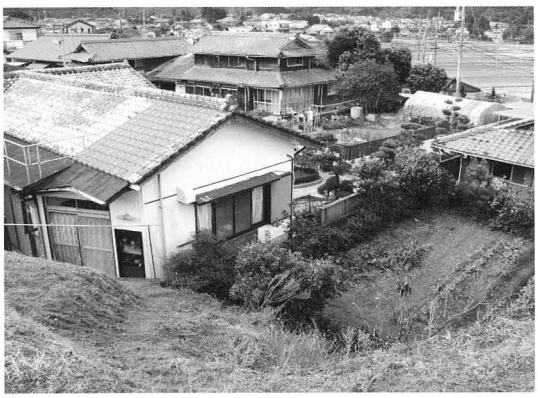


PL.70　馬場畑遺跡Ｔ２土層

PL.71　馬場畑遺跡Ｔ３土層

PL.72　馬場畑遺跡Ｔ４周溝完堀

PL.73　馬場畑遺跡調査地から墳丘を望む



PL.74　馬場畑遺跡調査地近景（調査前・墳丘上より）

19. 北浦町三川内上塚第１地点

所 在 地　延岡市北浦町三川内字向ノ原4933番1
調査原因　携帯電話基地局建設
調査期間　20130121～20130124
調査面積　4.0㎡
担 当 者　小野
処　　置　工事実施

（1）位置と環境

北浦町は延岡市の北東部に広がる地域である。宮崎県においても最北東部にあたり、大分県佐伯市と境を接する。

調査地のある上塚地区は北川の支流である小川が大きく蛇行して形成された丘陵上に位置する。川からの比高差は約100mである。谷を挟んだ東側の丘陵上には近世の上塚遺跡が、北川町との境には近世から近代にかけての下塚遺跡が存在する。

（2）調査の概要

トレンチを２ヶ所設定し、調査を行った。現地表から20cm ほどで四万十層の地山が検出され、遺跡の存在は極めて低いと判断される。

（3）検出遺構

なし

（4）出土遺物

なし

（5）まとめ

遺構・遺物は検出されていない。しかし、周辺には、西南戦争関連の伝承地もあり、周辺の遺跡の分布等を考慮すると、付近の開発には今後も留意する必要がある。

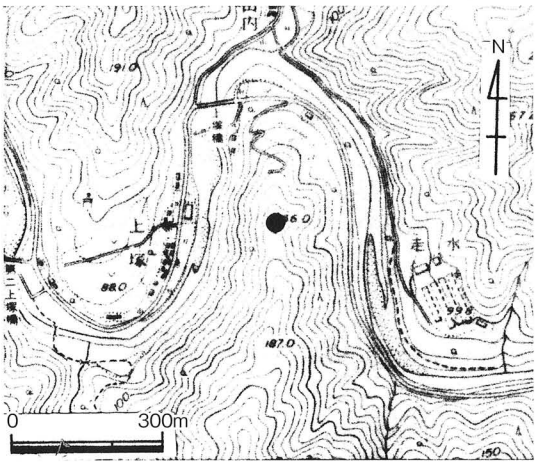


Fig.63　北浦町三川内上塚第１地点位置図（1/15,000）

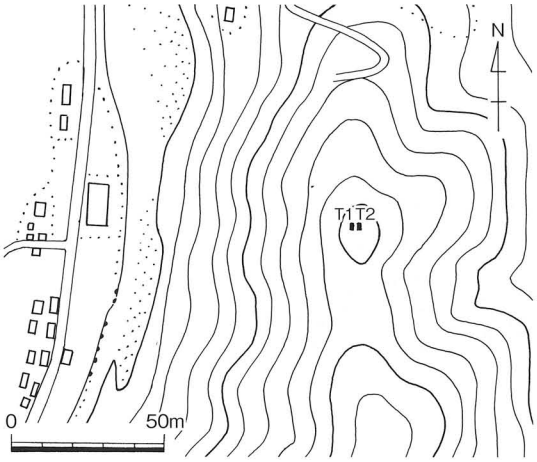


Fig.64　北浦町三川内上塚第1地点調査区配置図(1/2,500)

PL.75　北浦町三川内上塚第１地点調査状況（南から）

遺跡名	番号	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長cm(器高)	最幅cm(口・底径)	最厚cm(胎土)	重量g(焼成)
南浦村古墳	1		土器 壺 口縁部	ナデ にぶい橙	にぶい橙			3mm以下の白色粒・砂粒を含む	
南浦村古墳	2		土器 壺 口縁部	ナデ 橙	にぶい橙			3mm以下の赤色粒・砂粒を多く含む	
南浦村古墳	3		土器 壺 口縁部	ナデ 工具ナデ 橙	明赤褐			7mm以下の赤色粒・砂粒を多く含む	
南浦村古墳	4		土器 甕 底部	ハケメ ユビオサエ 橙	橙			3mm以下の白色粒・砂粒を含む	
南浦村古墳	5		土器 甕 底部	ハケメ ユビオサエ 橙	橙			5mm以下の赤色粒・白色粒・砂粒を多く含む	
南浦村古墳	6		土器 甕 底部	ユビオサエ ナデ 橙	明赤褐			4mm以下の赤色粒・砂粒を多く含む	
延岡城下町5次	1		磁器 碗蓋 肥前系(1820～1860)	桐文様 白	蝶文様 白		口径8.0		良
延岡城下町5次	2		磁器 碗 肥前系	白	白				良
延岡城下町5次	3		磁器 碗 染付 肥前系 19c	素描きによる文様 白	白		底径3.4		良
延岡城下町5次	4		陶器 鉢 北部九州系(19c)	灰白	灰白		口径22.0		良
日の出遺跡	1		土器 甕	タタキ 工具ナデ 灰白	灰白	20.9	口径14.2 底径4.4	5mm以下の赤色粒・砂粒を多く含む	
日の出遺跡	2		土器 甕 口縁部	ナデ 浅黄橙	浅黄橙			4mm以上の赤色粒・砂粒を多く含む	
日の出遺跡	3		土器 甕 底部	タタキ ナデ 灰白	灰白		底径4.8		
日の出遺跡	4		土器 甕 底部	タタキ 工具ナデ にぶい橙色	暗灰		底径5.6	7mm 以下の砂粒を多く含む	
日の出遺跡	5		土器 壺 頸部	ユビオサエ 浅黄橙	浅黄橙			4mm以下の赤色粒・砂粒を多く含む	
日の出遺跡	6		土器 壺 底部	ナデ 橙	暗灰		底径5.8	7mm 以下の砂粒を多く含む	
日の出遺跡	7		土器 壺 底部	タタキ ユビオサエ 橙	灰		底径4.6	7mm 以下の砂粒を多く含む	
日の出遺跡	8		土器 杯	ミガキ 明赤褐色	明赤褐色		口径12.5	1mm以下の石英・火山ガラスを多く含む	
日の出遺跡	9		土器 高坏 脚部	ミガキ 灰白	浅黄橙			3mm以下の赤色粒・砂粒を多く含む	
日の出遺跡	10		土器 壺 二重口縁	橙	にぶい橙			4mm以下の砂粒・雲母・石英を含む	
日の出遺跡	11		土器 高坏 脚裾部	ミガキ 橙	浅黄橙		脚端径13.6	3mm以下の赤色粒・砂粒を含む	
日の出遺跡	12		土器 高坏 脚裾部	ハケメ ナデ 浅黄橙	浅黄橙		脚端径15.2	3mm以下の赤色粒・砂粒を含む	
日の出遺跡	13		石器 円形型石製品(多孔円盤か) 緑泥片岩			2.5		0.3	
東原遺跡8次	1		加工を有する石器 打面有 ホルンフェルス			4.9	3.6	1.3	22.56
東原遺跡8次	2		使用痕剥片 自然面有 流紋岩			6.6	4.2	1.5	25.46
東原遺跡8次	3		使用痕剥片 打面有 頁岩			4.4	4.9	1.2	24.38
柳瀬遺跡	1		土器 鉢 縄文時代	赤褐色	にぶい橙				
柳瀬遺跡	2		土器 壺 縄文時代	赤褐色	赤褐色				
柳瀬遺跡	3		土器 壺 縄文時代	赤褐色	赤褐色				
柳瀬遺跡	4		石器 ナイフ形石器 流紋岩			5.7	3.0	1.1	17.76
惣泉寺跡	1		弥生土器 甕 口縁部(弥生中期後半)	張り痕あり 浅黄橙	灰褐色		口径37.5	1～2mm程度の砂粒含む	良
惣泉寺跡	2		弥生土器 甕 胴部	ヘラ削り にぶい褐	風化の為不鮮明 浅黄橙			1～2mm程度の砂粒含む	良
惣泉寺跡	3		陶器 すり鉢 胴部	灰白	灰			1mm程度の砂粒含む	良
惣泉寺跡	4		青磁 碗 龍泉窯系 18c後半～19c	線摘蓮弁花文・釉だれ・暗オリーブ	施釉。貫入有り 暗オリーブ		底径5.3		良
惣泉寺跡	5		陶器 皿 18～19c	見込み蛇の目釉剥ぎ			底径4.6		良
惣泉寺跡	6		陶器 蓋	貫入有り 浅黄	貫入有り 浅黄	蓋径11.2			良
惣泉寺跡	7		磁器 皿(輪花皿) 口縁部 口銹	白	白		口径16.0		良
惣泉寺跡	8		陶器 蓋付壺 肥前系 18c後半～19c 鉄釉流掛	明黄橙	明黄橙		口径8.0		良
惣泉寺跡	9		陶器 蓋付壺 肥前系 18c後半～19c 鉄釉流掛	釉有り	無釉				良
惣泉寺跡	10		陶器 蓋付壺 肥前系 18c後半～19c 鉄釉流掛	暗オリーブ	暗オリーブ		底径10.8		良
惣泉寺跡	11		磁器 碗(端反碗) 胴～底部 18c後	一重網目文 淡水色	見込み文様有り 淡水色				不良
惣泉寺跡	12		磁器 碗 明治以降 銅板版刷り	白	見込みにハマ痕有り 白	5.6	口径10.2 底径3.9		良
惣泉寺跡	13		磁器 皿 プリント(銅板転写 明治・大正以降)	白	白	2.7	口径12.8 底径6.8		良
惣泉寺跡	14		磁器 小杯 第2次世界大戦	白	白	3.3	口径7・8 底径3.0		良
恒富本村遺跡	1		縄文土器 深鉢 頸部	ヘラナデ にぶい褐色	風化の為不鮮明			にぶい黄橙 1～4mm程度の砂粒含む	良
恒富本村遺跡	2		弥生土器 甕 口縁部	風化の為不鮮明 橙	風化の為不鮮明 橙(風化)			橙 1～5mm 程度の砂粒含む	良
恒富本村遺跡	3		弥生土器 甕 口縁部	風化の為不鮮明 淡赤褐色	風化の為不鮮明 淡赤褐色		口径16	1～0.2mm 程度の砂粒含む	良
恒富本村遺跡	4		弥生土器 甕 頸部	ナデ 黄橙	ヘラナデ 黄橙			0.1mm 程度の砂粒含む	良
恒富本村遺跡	5		弥生土器 甕 底部	風化の為不鮮明 にぶい橙	指圧痕 黒褐色			1～0.2mm 程度の砂粒含む	良
恒富本村遺跡	6		弥生土器 甕 口縁部	ななめ方向のナデ 赤褐色	風化の為不鮮明 赤褐色		口径24.4		良
恒富本村遺跡	7		須恵器 坏蓋	黒褐色	黒褐色				良
恒富本村遺跡	8		須恵器 坏蓋	浅黄	灰		底径6.5		良

遺　跡　名	番号	層	器　種(石材)・部　位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長cm(器高)	最幅cm(口・底径)	最厚cm(胎土)	重量g(焼成)
恒富本村遺跡	9		須恵器 ハソウ 口縁部	灰	褐灰		口径12.0		良
恒富本村遺跡	10		須恵器 坏蓋	手もち成形 灰	手もち成形 灰				
恒富本村遺跡	11		須恵器 台付鉢 脚部	黒褐色	黒褐色				良
恒富本村遺跡	12		須恵器 高杯 脚部	ヘラナデ 青灰	ヘラナデ 釉有り 灰白			釉に2～6mm 程度の砂粒含む	良
恒富本村遺跡	13		土師器 甕 底部	風化の為不鮮明 灰白	タタキ調整?不鮮明 灰白		底径14.3		良
恒富本村遺跡	14		土師器 皿 底部	糸切り痕 灰白	灰白		底径6.4	1mm程度の砂粒含む	良
恒富本村遺跡	15		土錘	浅黄橙		4.4	幅1.3 口径0.35	1～2mm程度の砂粒含む	良
恒富本村遺跡	16		瓦質土器 鉢 底部	風化の為不鮮明 灰色 ナデ	ハケ目 灰色		底径14.5		良
恒富本村遺跡	17		青磁(龍泉窯系) 皿(腰折皿) 口縁 15～16c	青灰	青灰				良
吉野遺跡9次	1		石器 ナイフ型石器 流紋岩			5.7	2.0	1.0	9.57
吉野遺跡9次	2		石器 ナイフ型石器 流紋岩			4.7	1.8	0.6	5.07
吉野遺跡9次	3		石器 ナイフ型石器 流紋岩			9.3	2.7	1.5	26.71
吉野遺跡9次	4		石器 ナイフ型石器 流紋岩			3.3	2.0	0.9	4.37
吉野遺跡9次	5		石器 ナイフ型石器 流紋岩			3.5	1.7	0.4	2.83
吉野遺跡9次	6		石器 スクレイパー 黒曜石			2.4	1.8	0.6	2.18
吉野遺跡9次	7		石器 ナイフ型石器 流紋岩			3.0	2.0	0.5	3.25
吉野遺跡9次	8		石器 ナイフ型石器 流紋岩			6.9	3.9	1.2	29.48
吉野遺跡9次	9		石器 ナイフ型石器 流紋岩			2.6	1.1	0.4	0.99
吉野遺跡9次	10		石器 ナイフ型石器 流紋岩			3.2	2.7	0.9	5.94
吉野遺跡9次	11		石器 剥片 流紋岩			6.7	2.8	0.9	18.35
吉野遺跡9次	12		石器 スクレーパー 流紋岩			7.4	5.5	2.8	134.99
吉野遺跡9次	13		石器 スクレイパー 流紋岩			5.8	3.4	1.4	29.57
吉野遺跡9次	14		石器 二次加工剥片 流紋岩			5.7	5.4	1.8	39.78
吉野遺跡9次	15		石器 台形 黒曜石			2.5	1.9	0.5	2.64
吉野遺跡9次	16		石器 スクレイパー 黒曜石			3.7	2.2	1.3	8.81
吉野遺跡9次	17		石器 二次加工剥片 流紋岩			5.0	5.0	1.6	32.53
吉野遺跡9次	18		石器 核 流紋岩			3.9	7.0	3.6	163.46
吉野遺跡9次	19		石器 接合資料 流紋岩			5.4	8.5	2.6	111.21
吉野遺跡9次	20		石器 接合資料 流紋岩			6.8	6.8	2.8	129.86
吉野遺跡9次	21		石器 敲石 流紋岩			9.3	6.7	3.8	374.49
東原遺跡9次	1		弥生土器 甕 胴部	ナデ・指押さえ・ススつ 黄橙	ナデ・指押さえ 明黄褐			径1～2mm程度の粒子含む	良
延岡城内遺跡24次	1		弥生土器 甕 口縁部	ナデ・ススつ付着 にぶい黄橙	ススつ にぶい黄橙				良
延岡城内遺跡24次	2		須恵器 器種不明 頸部 5c後半	ナデ 灰	ナデ 青灰			2mm 程度の粒子含む(浅黄土)	
延岡城内遺跡24次	3		須恵器 甕 胴部 5c後半	タタキ 褐色	タタキ 褐色				良
延岡城内遺跡24次	4		須恵器 甕 胴部	タタキ 灰白	タタキ 灰			灰 1mm粒子含む	良
延岡城内遺跡24次	5		陶器 白磁碗(中国製?) 胴～底部 中世	無施釉 オリーブ黄	施釉		底径5.1	2mm 程度の白粒子含む	良
延岡城内遺跡24次	6		陶器 鉢 備前 口縁部 18c後半～19c	ハケ目・横ナデ・ススつ付着 明黄褐	ハケ目・横ナデ・ススつ付着 橙				良
延岡城内遺跡24次	7		陶器 皿 肥前 16c末～17c前半	白黄土	白黄土				良
延岡城内遺跡24次	8		磁器 そばちょこ(肥前系) 胴部～底部 18c後半	松竹梅文? 白	白		底径5.2		良
延岡城内遺跡24次	9		磁器 五寸皿?(肥前系) 18c代	高台内(渦福?) 白	見込(五弁花文?) 白		底径8.1		良
延岡城内遺跡24次	10		磁器 広東碗(肥前系) 底部 1780年代～1840年	白	圏線 白		底径6.4		良
延岡城内遺跡24次	11		陶器 鉢 肥前 18c～19c 白泥	刷毛目 赤茶	刷毛目 赤茶		口径22.4		良
延岡城内遺跡24次	12		磁器 鉢(肥前系) 口縁部 18c後	白	白		口径13.7		良
延岡城内遺跡24次	13		磁器 碗 肥前系 ほぼ完形	草花文 白	白	4.6～4.65	口径9.0 底径3.3		良
延岡城内遺跡24次	14		磁器 碗(端反碗) 底部 18c後～19c	丸文 白	口縁部(渦文)	5.2	口径9.2 底径3.4		良
延岡城内遺跡24次	15		磁器 染付鶴首瓶? 底部 19c 肥前系	草花文			底径5.2		良
延岡城内遺跡24次	16		陶器 碗(京都信楽系) 胴部 口縁部 19c	貫入有り 白	貫入有り 白		口径9.0		良
延岡城内遺跡24次	17		陶器 碗(萩焼) 底部 19c				底径3.5		
延岡城内遺跡25次	1		石器 使用痕剥片 ホルンフェルス			5.4	3.5	0.9	18.3
延岡城内遺跡25次	2		土師器 高杯 脚部	ナデ 橙	横ナデ 橙		口径8.0	1mm 以下の赤粒子を含む	良
延岡城内遺跡25次	3		土師器 高杯 脚部	ナデ・ススつ付着 にぶい黄橙	ナデ・ススつ付着 にぶい黄橙			1mm 以下の黒粒子を含む	良
延岡城内遺跡25次	4		蓋・須恵器	ナデ 灰	ナデ 灰			灰白 1mm以下の白粒子を含む	良
延岡城内遺跡25次	5		甕・須恵器・胴部	タタキ・ヘラ削り 灰白	タタキ 灰白			灰白 1mm以下の白粒子を含む	良
延岡城内遺跡25次	6		土師器 小皿 底部	明赤褐	明赤褐		底径5.0	1～2mm以下の赤粒子を含む	良
延岡城内遺跡25次	7		土師器 小皿 底部	橙	ススつ付着 にぶい橙		底径6.0	1mm以下の赤・茶の粒子を含む	良
延岡城内遺跡25次	8		土師器 小皿 底部	ナデ にぶい橙	橙		底径7.0	1～2mm 以下の黒・茶・赤の粒子を含む	良
延岡城内遺跡25次	9		磁器 皿 伊万里 1640～1650年代位	淡水色	淡水色	3.1	口径14.0 底径7.0		良

報告書抄録

ふりがな	しないいせき
書名	市内遺跡
副書名	平成24年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第49集
著者名	小野信彦、尾方農一、甲斐康大
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路２－１
発行年月日	2013年３月29日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
南浦村古墳（第３次）	延岡市熊野江町2453－1外	452033	1501	32° 40′ 13″	131° 47′ 10″	2012／0305～2012／0330	200.6㎡	範囲確認
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
石棺	古墳		無		土器、人骨			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城下町遺跡（第５次）	南町２丁目４－１	452033	3026	32° 34′ 47″	131° 39′ 57″	2012／0423～2012／0425	18.0㎡	寺院建設
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
集落跡	弥生　近世		無		陶磁器			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
浄土寺遺跡（第１次）	大貫町5丁目1547番地、1672番地	452033	4080	32° 34′ 12″	131° 38′ 59″	2012／0516～2011／0530	21.3㎡	その他の建物
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
社寺跡	中世		無		陶磁器			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
日の出町遺跡（第３次）	日の出町１丁目21番３、21番12	452033	3007	32° 35′ 22″	131° 40′ 28″	2012／0516～2012／0524	34.6㎡	個人住宅建設
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
散布地	古墳		溝状遺構２条		須恵器、陶磁器			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
東原遺跡（第８次）	北方町川水流卯972番地	452033	37	32° 34′ 7″	131° 31′ 32″	2012／0703～2011／0711	28.9㎡	学校施設増築
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
散布地	旧石器～近世		無		旧石器剥片			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
荒田遺跡	小峰町7430番１	452033	4062	32° 34′ 36″	131° 37′ 18″	2012／0803～2011／0807	13.1㎡	携帯電話基地局建設
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
集落跡	弥生　近世		無		無			

所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
柳瀬遺跡（やなぜいせき）	北方町北久保山（きたかたまちきたくぼやま）字柳瀬2433番3（あざやなぜ ばん）	452033	40	32°34′37″	131°32′10″	2012／0816～2012／0824	16.7㎡	携帯電話基地局建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
散布地	縄文～近世		無		ナイフ形石器			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
林遺跡（はやしいせき）	伊形町2670番1（いがたまち ばん）	452033	6002	32°31′42″	131°39′46″	2012／0829～2012／0904	18.0㎡	携帯電話基地局建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
散布地	旧石器～近世		無		無			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
宮野浦菅田遺跡（みやのうらすがたいせき）	北浦町宮野浦（きたうらまちみやのうら）字菅田708番1（あざすがた ばん）	452033	8078	32°41′51″	131°50′31″	2012／0829～2012／0831	10.6㎡	携帯電話基地局建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
散布地	近世		無		無			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
惣泉寺跡（そうせんじあと）（第1次（だい じ））	古城町2丁目（ふるしろまち ちょうめ）7番6、7番9（ばん）	452033	5009	32°34′3″	131°39′37″	2012／0924～2012／0926	20.0㎡	個人住宅建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
寺跡	中世・近世		無		弥生土器・陶磁器			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
野田町八田遺跡（のたまちはったいせき）（第6次（だい じ））	野田町（のたまち）4821－16	452033	4072	32°34′25″	131°38′8″	2012／0920～2012／0921	22.0㎡	個人住宅建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
集落跡	縄文～古墳		無		無			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
恒富本村遺跡（つねとみほんむらいせき）（第1次（だい じ））	恒富町（つねとみまち）1丁目（ちょうめ）7－9	452033	5004	32°34′17″	131°39′40″	2012／0928～2012／1003	10.0㎡	個人住宅建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
集落跡	弥生～近世		無		弥生土器・須恵器・陶磁器			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
吉野遺跡（よしのいせき）（第9次（だい じ））	吉野町（よしのまち）1584－1	452033	4052	32°34′7″	131°37′14″	2012／1002～2012／1012	29.0㎡	携帯電話基地局建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
集落跡	弥生～古代		集石3基		ナイフ形石器・スクレイパー			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
大武遺跡（おおたけいせき）（第2次（だい じ））	牧町（まきまち）4692－1	452033		32°35′55″	131°41′29″	2012／1029～2012／1101	42.0㎡	その他の建物
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
			無		陶磁器			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
東原遺跡（ひがしばるいせき）（第9次（だい じ））	北方町川水流（きたかたまちかわずる）卯（う）964－16	452033	37	32°34′2″	131°31′33″	2012／1106～2012／1108	12.0㎡	個人住宅建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
散布地	旧石器～近世		無		弥生土器			

所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城内遺跡（第24次）	本小路246番2、246番4	452033	3018	32°34′54″	131°39′36″	2012／1112～2012／1116	22.0㎡	土地売買
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
城館跡	中世・近世		段状遺構		須恵器・陶磁器			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城内遺跡（第25次）	天神小路212番2	452033	3018	32°34′52″	131°39′34″	2012／1119～2012／1120	15.0㎡	土地売買
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
城館跡	中世・近世		無		須恵器・陶磁器			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
馬場畑遺跡	稲葉崎町1793－2　外	452033	2017	32°36′37″	131°40′43″	2012／1119～2012／1121	17.6㎡	個人住宅建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
古墳	古墳		墳端・周溝		無			
所収遺跡名	所　在　地	市町村コード	遺跡コード	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
北浦町三川内上塚第1地点	北浦町三川内字向ノ原4933番1	452033		32°34′52″	131°39′34″	2013／0121～2013／0124	4.0㎡	携帯電話基地局建設
種　別	主　な　時　代		主　な　遺　構		主　な　遺　物		特　記　事　項	
散布地	中世・近世		無		無			

市内遺跡

平成24年度市内遺跡発掘調査事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

延岡市文化財調査報告書　第49集
2013年3月29日

発行：延岡市教育委員会
宮崎県延岡市東本小路2番地1

印刷：河野印刷有限会社
宮崎県延岡市川原崎町453